

## 第6回 五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会

## 平成30年度の実施取組内容

■国土交通省 延岡河川国道事務所	1
■宮崎地方気象台	40
■宮崎県砂防課	43
■延岡土木事務所	46
■西臼杵支庁	58
■延岡市	69
■高千穂町	78
■日之影町	92
■五ヶ瀬町	102

# 平成30年度の実施取組内容

国土交通省 延岡河川国道事務所

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

③ハザードマップの作成や訓練等への活用に関する情報提供及び避難計画等を反映した洪水及び土砂災害ハザードマップの策定・周知 **【水害や土砂災害の危険性を周知するためのイメージ映像の提供】**

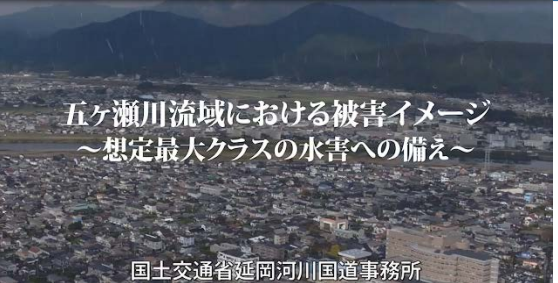
- ハザードマップの作成や訓練等に活用できるように、想定最大クラスの被害イメージ映像を作成した。
- 要配慮者施設管理者を対象とした講習会で、避難計画の検討支援として被害イメージ映像を提供した。
- 広く訓練等に活用できるようにホームページで閲覧できるように設定した。(2019.3.28 ホームページにアップ)



想定最大クラスの被害イメージ映像の提供

要配慮者施設講習会での情報提供 (H31.2.7実施)

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



■要配慮者避難確保計画講習会に関する記事

2019年2月13日 夕刊デイリー

2019年2月15日 宮崎日日新聞

■成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、**決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。**

■今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように**閲覧サイトの情報を周知**していく予定。

■五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像



http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/

# 五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の紹介 ～想定最大クラスの水害への備え～

○国土交通省延岡河川国道事務所のホームページ及びYouTubeから視聴できます。

## ①トップページ <http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

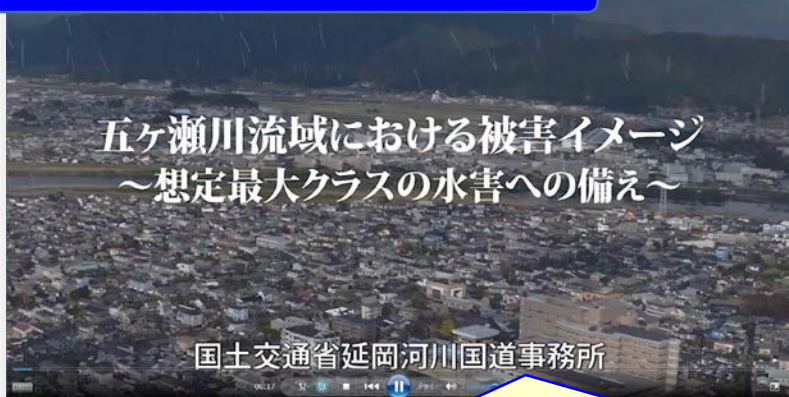


ここからでも選択できますが、新着順なのでスクロールしてご覧ください。

ここをクリック！



## ③五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像



この映像はYouTubeでも視聴できます。  
<https://youtu.be/QawMCp4UVV8>

## ②水防災意識社会再構築ビジョン



協議会の資料はこちらで確認できます

ここをクリック！

平成31年3月28日 大瀬川が破堤したイメージ映像(DVD)  
 平成31年3月28日 五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え～(DVD)

## ⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

### 【三須地区におけるマイハザードマップ・コミュニティタイムライン作成】

- 第1回会議では、防災に関する基礎知識を学んだ後に、まち歩きとマイハザードマップづくりを行った。
- 第2回会議では、避難のタイミングを検討するタイムラインの検討を行った。
- 第3回会議では、定期的に訓練でマイハザードマップとコミュニティタイムラインを確認することとした。



第1回会議 (H30.12.2実施)



第2回会議 (H30.12.16実施)



第3回会議 (H31.1.27)

### ■ 参加者の感想 ~日頃からの動機づけが大切~

- ・自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- ・繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- ・災害における対策を考える時間となり良かった。
- ・日頃から意識づけがとても大切。
- ・自分の家が浸水するのがはっきり理解できた。
- ・危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- ・各自が危険と認識し、努力することになります。
- ・避難に対する認識の甘さを改めて感じた。
- ・今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- ・自主防災の大切さを改めて意識した。
- ・住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。
- ・災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- ・災害時の準備、心の準備など勉強になった。
- ・この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。

### ■ 成果

- 住民自身が、いつ、どこに避難するかを考え、避難時の注意点を共有した。定期的にマイハザードマップやコミュニティタイムラインを確認する活動につながった。



### ■ 今後に向けて

#### ~防災推進員を通して他地域へ展開~

- 今回、三須地区で実施したマイハザードマップやコミュニティタイムライン作成に用いた資料を研修セットとして防災推進員に提供し、他の地区で防災教育を展開するための支援を行う予定である。既に資料は防災推進員に提供済みであり、防災訓練で活用予定である。

# ⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

## 【第1回三須地区マイハザードマップづくり】

### 第1回三須地区マイハザードマップづくり ～まち歩きで危険箇所を確認、マイハザードマップの作成～

三須地区のマイハザードマップづくりの第1回会議が行われました。会議は、水害に関する基礎知識を学び、実際に現場に出て避難ルートを歩き、危険なポイントや気になるところを確認しました。約1時間かけて現地を回りましたが、雨が急に降り出すなど、本番さながらのまち歩きとなりました。まち歩きで確認したポイントはマイハザードマップとして作成し、成果を皆で共有しました。(次回は12月16日の予定)

- 日 時：平成30年12月2日
  - 会 場：三須町公民館
  - 参加者：三須地区住民(約20名)  
延岡河川国道事務所、延岡市
- 当日のスケジュール
  - 13:00～13:30 水害に関する基礎知識
  - 13:30～15:00 まち歩き
  - 15:00～16:00 マイハザードマップ作成



三須地区 区長

### ③マイハザードマップ作成 まち歩きで確認した危険箇所や気づきを整理

まち歩きで確認した危険箇所や気づいた点を付箋紙やシールを使って整理しました。



危険箇所の確認 付箋紙の記入 危険箇所シールの貼り付け



マイハザードマップ作成の様子(全景) 付箋紙の貼り付け



付箋紙の貼り付け 危険箇所シールの貼り付け 危険箇所の確認

### ①水害に関する基礎知識 延岡河川国道事務所から情報提供

水害に関する基礎知識について国土交通省延岡河川国道事務所より平成17年の水害等の情報が提供されました。



説明の様子(全景) 延岡河川国道事務所の説明

### ②まち歩き 現地で危険なポイントや気になるところを確認

まち歩きによってがけ崩れや深い溝があって浸水すると道路と水路の区別がつかなくなり危険なところなど、二手に分かれて1時間かけて現地を確認しました。確認した箇所は写真を撮ってメモをとりました。



土砂災害の危険箇所 土砂災害警戒区域を確認 危険箇所の写真撮影、記入



深い溝を確認 危険箇所の確認 標高の確認

### ④成果発表 みんなでまとめたマイハザードマップを代表者が発表

みんなで作ったマイハザードマップの成果を発表し、皆で情報を共有しました。



1班の発表 発表の様子 2班の発表

### ⑤最後に 思いこみは危険、参加して広げていく、すぐに実施したい

最後に国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、区長よりコメントをいただきました。



延岡河川国道事務所 延岡市危機管理室 三須地区 区長



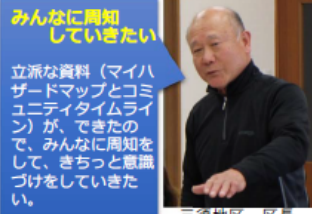


⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

【第3回三須地区マイハザードマップづくり】

第3回 三須地区マイハザードマップづくり  
～全員で避難の留意点を最終確認、継続活用について共有～

三須地区のマイハザードマップづくりの第3回会議が行われました。第1回及び第2回の会議概要を広報紙としてまとめ、今後事例を公開していくことを確認しました。また、マイハザードマップとコミュニティタイムラインの最終確認を行い、避難を行う上で留意すべき場所や避難するまでの行動や収集すべき情報について確認を行いました。今回作成した成果は、公民館や自主防災対策本部が設置される消防本部に常設し、定期的に訓練で活用される予定です。個人用としてA3版資料（ラミネート）が延岡河川国道事務所から配付される予定です。



立派な資料（マイハザードマップとコミュニティタイムライン）が、できたので、みんなに周知をして、きちっと意識づけをしていきたい。

三須地区 区長

<p>■日 時：平成31年1月27日</p> <p>■会 場：三須町公民館</p> <p>■参加者：三須地区住民（約20名）</p> <p>延岡河川国道事務所、延岡市</p>	<p>■当日のスケジュール</p> <p>13:00～13:10 第1回及び第2回会議のふりかえり</p> <p>13:10～14:20 マイハザードマップ、コミュニティタイムラインの確認</p> <p>14:20～14:30 参加者の感想、コメント</p>
---	---

① 第1回及び第2回会議概要（広報紙）の確認 事例の公開

第1回及び第2回ワークショップの概要を確認し、三須地区の事例を今後公開することについて確認をしました。



第1回及び第2回の概要に広報紙で確認



第1回及び第2回の広報紙

② マイハザードマップとコミュニティタイムラインの確認 避難の再確認

マイハザードマップの確認では、避難における危険箇所を再確認を行い、内水が生じる前に避難が必要であることを再度確認した。コミュニティタイムラインの確認では、避難誘導に関する役割分担や連携について確認しました。



マイハザードマップの確認



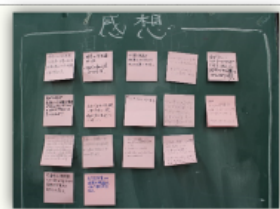
コミュニティタイムラインの確認

③ 参加者の感想 日頃からの意識づけ大切、町民全体に浸透するとよい

これまで3回の会議を通じて「気づいたこと」「良かったこと」等について感想を共有しました。

■参加者の感想

- 自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- 繰り返し見直しにより良いマップにしていこうと思う。
- 災害における対策を考える時間となり良かった。
- 災害時に消防団として何をすべきか役割がみえてよかった。
- 非常に興味深かった。町内の和が広がる。
- 日頃から意識づけがとても大切。いざという時に動けない。
- 新たな危険箇所が理解できた。良いハザードマップができた。
- 自分の家が浸水するのははっきり理解できた。
- 地元の危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- 各自が危険と認識し、努力することになります。堤防の高さを同じにしたい。
- 南海トラフ地震で津波が起こった時のハザードマップも紐付けできる。
- 避難に対する認識の甘さを改めて感じ、今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- 地区を見て歩き、危険箇所が大変勉強になった。自主防災の大切さを改めて意識しました。
- 住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- 災害時の準備、心の準備など勉強になった。この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。
- 行政の方々にはお世話になり、立派なマップができた事に感謝致したい。
- 素晴らしいハザードマップができてうれしい。活用できるように頑張りたい。



④ 成果 公民館と消防本部に大判の資料を常設、個人用はA3版で確認

みんなで確認したマイハザードマップとコミュニティタイムラインの成果を共有しました。（集合写真）



継続的に活用

■大判資料（公民館常設：訓練用）

- A1のパネルにして公民館と消防本部に常設
- 訓練でマイハザードマップやコミュニティタイムラインを使って、定期的に確認

■A3版資料（個人用：家庭確認用）

- 個人用として配布
- ⇒延岡河川国道事務所より配付
- ・各家庭で平常時から確認

⑤ 最後に 逃げ遅れゼロにつなげる、個人個人で逃げる、自主防災の訓練で活用

国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員、区長よりコメントをいただきました。（区長のコメントは冒頭に示しました）



マップと行動計画が逃げ遅れゼロにつながるかと考えている。自分の身は自分で守る避難行動を家族に伝えてほしい。



台風の際は消防団の方々も本当に厳しい状況になる。個人個人で、まず逃げていただくことをお願いしたい。



作ったものが絵に描いた餅にならないように、毎年の自主防災の訓練のタイムラインに沿って実際にやりましょう。

延岡河川国道事務所

延岡市危機管理室

防災推進委員

⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 **【防災授業継続実施：岡富小学校】**

- 防災授業【流れる水のはたらき】では、航空写真や模型（地形確認）、雨量計、水害写真を提供した。
- 防災授業【自然災害を防ぐ】では、昨年提供した防災学習ツール（説明用パワーポイント、洪水の仕組みを理解するための模型など）を用いて、今年度も5年生を対象に継続して防災授業が実施された。



防災授業【流れる水のはたらき】（H30.11.6実施）



- （子供たちの意見）自分たちでできること
- 避難する場所を決めておく
  - 避難訓練を真剣にする
  - 普段から水害があった場所を確認しておく
  - 大丈夫だと思わないで早めに避難する
  - 地形を知る
- など



防災授業【自然災害を防ぐ】（H31.2.26実施）

■ 国土交通省延岡河川国道事務所から情報提供

イラストを使って流れる川のはたらきを学びました 模型を使って五ヶ瀬川の流域も確認しました



授業で活用された五ヶ瀬川に関する資料（国土交通省より提供）

■ 成果

○延岡河川国道事務所が岡富小学校へ提供した防災学習資料を活用して、昨年と同様に小学5年生を対象に、**継続して防災授業が実施**されている。

■ 今後に向けて ~防災学習支援セットを市内の小中学校に提供~

○防災授業で活用できる防災学習支援セットを市内の小中学校すべてに提供する予定。提供する際に、**説明書を添付**し、支援ツールの使い方や事例を紹介し、**教員が自ら授業を実施できるように配慮**した。 **水害写真集**



⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進  
**【防災授業の支援：岡富小学校（流れる水のはたらき）】**

**五ヶ瀬川を題材とした理科の授業（11月6日）**  
 ～流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか～

五ヶ瀬川を題材とした理科の授業が岡富小学校の5年生を対象に行われました。平成30年11月6日の授業では、流れる水のはたらきについて、五ヶ瀬川の模型やイラスト図、航空写真を活用して学びました。11月7日の授業では、水害の映像や雨量計、五ヶ瀬川の石を使って、五感を働かせながら、川の流れとそのはたらきや川とわたしたちの暮らしについて学びました。



中村先生

**【学習活動】赤枠の部分を実施**  
**単元導入：流れる水のはたらき**  
 第1時：地面を流れる水  
 第2時：川の流れとそのはたらき  
 第3時：川とわたしたちの暮らし  
 第4時：私たちの暮らしを守る

**【実施概要】**  
 ■日時：  
 ①平成30年11月6日 8:45～10:25  
 ②平成30年11月7日 8:45～12:15  
 ■対象：岡富小学校5年1組、2組  
 ■会場：岡富小学校理科室（3階）

① 単元導入 航空写真とイラスト図より流れる水のはたらきを知る



イラストを使って流れる川のはたらきを学びました 模型を使って五ヶ瀬川の流域も確認しました

授業で活用された五ヶ瀬川に関する資料（国土交通省より提供）

- 五ヶ瀬川の航空写真
- イラスト図
- 雨量計
- 雨量計の説明
- 五ヶ瀬川の模型
- 五ヶ瀬川の上・中・河口の石
- 現在の写真
- 水害の写真
- 水害写真
- 五ヶ瀬川防災ポータルサイト
- 国の取組

**五ヶ瀬川を題材とした理科の授業（11月7日）**  
 ～わたしたちの地域の川はどうなっているのだろうか～

① 川の流れとそのはたらき 五ヶ瀬川の石を目で見て、触って確認する

■山の中、平地、海の近くでは、川のように石や砂のようすは、どのように変化するかをスライドや五ヶ瀬川実際の石を使って、石の形や大きさが変化していることを学びました。



五ヶ瀬川の石があるのだから触ってみよう

写真で上流から河口までの流れの変化と、実際に五ヶ瀬川の石に触って上流、中流、河口の石の形や大きさを感した。

② 川とわたしたちの暮らし 水害時の写真や映像、雨量計などを見て学ぶ

■川はどんなときに、周りのようすを変えるのか、平成17年水害の写真や映像を見て学びました。



現在と水害時の写真で確認

過去に起こった災害について、おじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみてください

これで雨量を測定します。1時間に100mmで何センチになりますか？

おうちの人に五ヶ瀬川防災ポータルサイトに、いろいろな防災に関する情報があることを教えてあげてください

雨量計

雨量計のしくみを知る

防災に関する情報を知る

五ヶ瀬川防災ポータルサイト

平成17年の水害の映像で確認

③ 私たちの暮らしを守る 災害から暮らしをまもるための取組を学ぶ

■私たちが川とともにくらすためのくふうは、どんなものがあるかを考えるために身近な五ヶ瀬川を管理している国の取組について学びました。



洪水を防ぐための対策を学ぶ

五ヶ瀬川で実施された国の取組を知る

⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進  
**【防災授業の支援：岡富小学校(自然災害を防ぐ)】 昨年から継続実施**

**五ヶ瀬川を題材とした防災学習 (平成31年2月)**  
 ～自分たちのいのちを守るためにできることを考える～

五ヶ瀬川を題材とした防災学習が、平成31年2月25日と26日に岡富小学校の5年生を対象に行われました。授業は総合学習の時間で行われ、水害から延岡市を守るために国や地域、地域住民の方はどんな取組をしたかを知り、防災意識を高めました。昨年と同様に水害の写真や映像、模型を使って学びました。最後に、自分たちのいのちを守るためにできることを父兄の方と一緒に考えてきました。



森本先生 舘間先生

【2月25日の学習の流れ】  
 ①どんな災害がおきやすい？  
 ②2月26日の学習の流れ】

25日は、水害の写真や映像を使って学習

③前時までの振り返りをする

26日は、模型やパワーポイントを使って学習

④めあてをたてる

⑤国や地域の取組について考える

⑥地域住民の取組について知る

⑦自分のいのちを守るためにできることを考える

⑧本時学習のまとめをする

■日時：①平成31年2月25日

11:00～11:45

②平成31年2月26日

14:15～15:00

■対象：岡富小学校5年生

■場所：岡富小学校体育館

**どんな災害がおきやすい？** 水害の写真や映像を見て感じたことを発表

■最初に、延岡市でどんな自然災害が起こったのかを大きい水害の写真や映像を見て感想を発表しました。



現在と水害時の写真

水害の映像

堤防があったのにどうして水害にあったのだろう？

**①前時の振り返り②めあてをたてる** 命を守るための取組を知る

■2月25日の授業を振り返り、「水害から人々の命を守るために、国や地域、地域の人々がどのような取組を行っているのかわかる」というめあてを子供たちと共有しました。

**②国や地域の取組について知る・考える** 絵や模型を使って説明

■水害から人々の命を守るための国や地域の取組として、子供たちには堤防に着目した取組について想像し、絵にまとめて発表しました。また、模型やパワーポイントで説明がありました。国からの補足説明もありました。

対策後



川の底を掘る



模型とパワーポイントの絵を使って洪水を防ぐ3つの取組を説明



こう水を防ぐ取組を絵に描いてください



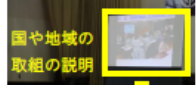
グループに分かれて作業

こう水を防ぐ取組を絵にしている様子



子供たちが考えたこう水を防ぐ工事 (一例)

今日、皆さんが発言した内容はすべて正解です。家に帰って家族で避難について話してみてください。



国や地域の取組の説明



国土交通省からの感想



国、県、地域が連携した防災の話し合い

水害のときにどのように連携すればいいか防災に関わるたくさんの機関で考えています

国、県、地域が連携した防災の取組の紹介

**③地域住民の取組について知る・考える** 自分たちでできること

■地域住民の取組について学んだ後、自分たちの命を守るために自分たちでできることを発表しました。



地域住民の取組の説明

(子供たちの意見) 自分たちでできること  
 ●避難する場所を決めておく  
 ●避難訓練を真剣にする  
 ●普段から水害があった場所を確認しておく  
 ●大丈夫だと思わないで早めに避難する  
 ●地形を知る など



自分たちでできることは？

自分たちでできることについて意見を共有

**④まとめ**

■最後に、「水害からくらしや命を守るために、国や地域は様々な取組を行っているとともに、自分たちができることを周りと協力しながら行うことが大事である」ということをまとめとして共有しました。

⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 **【自治会、小学生、要配慮者施設管理者を対象にした防災教育の推進】**

- 住民を対象としたマイハザードマップづくりの会議で、水害や土砂災害の危険性を示す写真や映像を紹介した。
- 小学生を対象にした防災授業では、昨年度と同様に水害写真集や模型等を用いて実施された。⇒**継続実施**
- 要配慮者避難確保講習会で、五ヶ瀬川流域における想定最大クラスの被害イメージ映像を紹介した。



自治会を対象にした防災教育



小学生を対象にした防災教育  
※昨年から継続実施



要配慮者施設管理者を対象にした防災教育

マイハザードマップづくり(H30.12.2実施)

岡富小学校における防災授業(H31.2.26実施)

要配慮者避難確保講習会(H31.2.7実施)

**情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例**

五ヶ瀬川流域における被害イメージ  
～想定最大クラスの水害への備え～

国土交通省延岡河川国道事務所

浸水さらに拡大 避難が困難

イメージ映像

氾濫が一気に拡大

氾濫後は車等が流されている

**■ 成果**

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、**決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。**

**■ 今後に向けて**

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように**閲覧サイトの情報を周知**していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス

**ホームページで閲覧可能**

<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 【要配慮者避難確保計画：講習会】

要配慮者利用施設の避難確保計画作成に係る講習会 ～防災情報の入手方法、避難確保計画作成の留意点を学ぶ～

洪水に対する避難確保計画の作成にあたり、過去の災害教訓、地域の被害特性、避難のために必要な防災情報の入手方法等に関する正しく理解するため、国土交通省、宮崎県、気象庁、延岡市が準備したプログラムにより、要配慮者施設の管理者を対象に九州地方整備局管内では初となる講習会が行われた。

- 日時：平成31年1月9日 14:30～17:00
- 会場：延岡総合文化センター 大ホール
- 主催者：国土交通省九州地方整備局、延岡河川国道事務所、気象庁、宮崎地方気象台、宮崎県土木整備部河川課、宮崎県土木整備部砂防課、延岡市総務部危機管理室
- 参加者：要配慮者施設管理者 約300名（関係者を含めて350名）

- 講習会のプログラム
- あいさつ
  - 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成等について
  - 避難確保計画作成に係る講習会開催の目的と進め方について
  - 国土交通省直轄管理区間洪水浸水想定区域、防災情報入手等について
  - 宮崎県管理区間洪水浸水想定区域、防災情報入手等について
  - 土砂災害リスクについて（土砂災害警戒区域等）
  - 段階的に発動する防災気象情報の活用について
  - 災害時の防災情報伝達について（要配慮者利用施設への情報提供）
  - 要配慮者利用施設避難確保計画の作成上の留意点等について
  - 今後の予定



(司会) 延岡市総務部危機管理室 室長補佐

1. 延岡市 要配慮者の命を守るだけでなく、そこで働く職員の命を守る、災害対策に繋げてほしい



平成23年の東日本大震災以降、全国各地で大規模な災害が発生しており、延岡市においても、国土交通省、気象庁、宮崎県、その他関係機関と緊密に連絡、連携を取りながら様々な災害に対する取り組みを実施していく必要がある。平成27年の関東・東北豪雨により甚大な被害を受けたことを契機として、水防法、土砂災害防止法の改正により、要配慮者の所有者・管理者は、避難確保計画の作成と避難訓練の実施が義務化されているが、避難確保計画の作成と避難訓練の実施は、要配慮者の命を守るだけでなく、そこで働く職員の命を守ることもであるので、本日の講習会を有意義に活用して、要配慮者避難確保計画をはじめとした災害対策に繋げて欲しい。

2. 国土交通省九州地方整備局 避難確保計画の作成と「避難訓練の実施」が義務化された

平成27年9月関東・東北豪雨や、平成28年8月台風10号等で逃げ遅れによる多数の死者や甚大な経済損失が発生したこと等、要配慮者利用施設の避難確保計画作成が義務付けられた背景について説明が行われた。



3. 国土交通省九州地方整備局 計画作成が最終目標ではない、継続的な防災行動の推進が重要

全国で頻発する洪水被害や避難確保計画作成の必要性や継続的な防災行動の推進について説明が行われた。また、作成した避難計画を基に防災訓練等を実施し、継続的に改善を行うことの重要性が示された。



水災害予報センター水災害対策専門官 全国の洪水被害の説明

4. 国土交通省延岡河川国道事務所 浸水し始めてからの避難は危険、正常性バイアス

延岡市における近年の水害として平成17年台風14号時の被害状況を紹介され、家屋周辺が浸水し始めての避難行動の危険性や正常性バイアス、さらに洪水浸水想定区域図や防災情報の入手について説明が行われた。



調査第一課長 平成17年水害の映像の説明

5. 宮崎県土木整備部 河川課 公表されている防災情報を入手して避難を検討することが重要

宮崎県で公表している延岡市内における県管理区間の河川に関する河川情報や防災情報の入手方法の他、想定最大規模の洪水浸水想定区域図について説明が行われた。中小河川にも水位計を設置していくことが紹介された。



主幹 宮崎県管理区間洪水浸水想定区域の説明

6. 宮崎県土木整備部 砂防課 土砂災害が発生する危険性を事前に確認することが重要

避難確保計画の作成にあたって、どこでいつ土砂災害が発生する可能性があるかといった危険性を確認する方法や土砂災害（特別）警戒区域、土砂災害危険度情報等について説明が行われた。



主幹 土砂災害リスクの説明

7. 気象庁宮崎地方気象台 防災気象情報を正しく理解し、各情報に応じた段階的な行動が重要

各段階で発表される防災気象情報の概要や収集方法の他、それぞれの気象情報時に求められる行動や確認すべきポイントについて説明が行われた。



防災気象官 防災気象情報の活用の説明

8. 9. 延岡市総務部危機管理室 各施設の状態に応じたわかりやすい計画の作成が重要

洪水・土砂災害それぞれにおける要配慮者利用施設の避難確保計画に位置づけるべき事項や作成にあたっての主な留意点、情報収集の方法（参考となる資料含む）について説明が行われた。



主任主事 作成の留意点の説明

⑤ 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

【要配慮者避難確保計画：ワークショップ】

要配慮者利用施設避難確保計画講習会

～施設管理者（約230名）が避難の課題と対策を意見交換～

本講習会は、参加者が自らの施設の避難確保計画に活かせるように避難確保計画作成にあたっての課題や取組などについて意見交換を行った。九州福祉大学の川崎教授が講師に招かれ、ワールドカフェといわれるワークショップ方式にて参加者の意見交換を促した。参加した施設の管理者は10月を目指して避難確保計画を作成する予定である。

- 日 時：平成31年2月6,7日 09:30～16:30
- 会 場：延岡市中小企業振興センター5F会議室
- 参加者：2日間で約230名（要配慮者施設管理者）
- 主 催：国土交通省九州地方整備局、延岡市
- 共 済：宮崎県

避難の際や避難所生活での支援をしてもらえるように、日頃からのコミュニケーションが重要



九州保健福祉大学 川崎教授

【ワークショップのテーマ】

- テーマ①：災害時に安全に避難する方法
- テーマ②：災害時に安全に避難するための体制

① 延岡市危機管理室 あいさつ、講習会（座学）の振り返り、今後の予定

延岡市危機管理室より、あいさつが行われた。また、1月9日に実施された講習会（座学）の振り返りが行われた。今後の予定として平成31年10月を目処に各施設の避難確保計画の提出を依頼した。



あいさつ



全体進行



講習会の振り返り

② 国土交通省からの情報提供 避難のタイミングを考えるための映像を紹介

国土交通省延岡河川国道事務所より、想定される最大規模の浸水深の確認方法について説明が行われ、避難のタイミングを考える上での参考事例として三須地区の防災マップやコミュニティタイムラインが紹介された。また、台風発生から内水、決壊に至るまでのイメージ映像を示し、参加者がどのタイミングで避難すべきかを考える上で参考となる情報提供を行った。（2日目のみ）

■事例紹介 マイハザードマップ



コミュニティタイムライン



想定最大浸水深の確認方法を説明



決壊までの被害イメージ映像

③ ワークショップ 避難に関する悩み、課題を共有し、解決策の糸口を探る

参加者は、テーマ①（災害時に安全に避難する方法）とテーマ②（災害時に安全に避難するための体制）について、意見交換を行い、避難に関する悩みや課題を共有し、解決策の糸口を探った。



第1ターン（テーマ1とテーマ2に分かれて意見交換）



付箋紙に課題を記入



第2ターン（他のグループと意見交換）



模造紙にはりつけ



第3ターン（他のグループの意見を共有）



解決策を検討

④ 成果 参加者が様々な意見に耳を傾け、課題、解決策を共有、連携のきっかけに

参加者は様々な意見に耳を傾け、お互いの課題と解決策を共有することができ、避難確保計画を検討する上で参考となる情報を持ち帰ることができた。また、今回のワークショップが連携のきっかけとなった。



参加者がまとめた成果の一例

- ・災害時に各事業所指示ができる人の存在（防災リーダー）が必要
- ・アプリやラジオなど災害時に活用できる情報収集ツールを把握
- ・避難計画にコミュニティタイムライン（いつ何をするか）を盛り込むことが効果的
- ・災害時には地域の方や消防団との連携が必要であり、そのためには日頃からのコミュニケーションが重要
- ・多くの事業所で同様の不安や課題があることを確認

参加者がまとめた成果の一例

⑤ 川崎教授のコメント 地域連携、日頃からのコミュニケーションが重要

- ・地域の防災計画や自主防災組織と連携を図る必要があり、地域の訓練への参加など関係性の構築が重要。
- ・事業所の利用者一人一人の状況に応じたハザードプランを立てるなど、広い視野で取り組むことが大事。
- ・同じ地域に存在している事業所では、お互いの事業所の強みを活かした相互協力を検討できると良い。
- ・計画はあくまで手段であり、利用者、職員、家族の安全が目的である。できることから実現してほしい。

⑥各地域の連携強化のために、地域防災マップ作成の出前講座を開講

【三須地区におけるマイハザードマップ・タイムライン作成】再掲

- 第1回会議は、防災に関する基礎知識の習得とまち歩きとマイハザードマップづくりを行った。
- 第2回会議は、避難のタイミングを検討するタイムラインの検討を行った。
- 第3回会議は、今後の運用について定期的に訓練等でマイハザードマップとタイムラインを確認することを決定した。



第1回会議 (H30.12.2実施)



第2回会議 (H30.12.16実施)



第3回会議 (H31.1.27)

■参加者の感想 ~日頃からの動機づけが大切~

- ・自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- ・繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- ・災害における対策を考える時間となり良かった。
- ・日頃から意識づけがとても大切。
- ・自分の家が浸水するのがはっきり理解できた。
- ・危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- ・各自が危険と認識し、努力することになります。
- ・避難に対する認識の甘さを改めて感じた。
- ・今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- ・自主防災の大切さを改めて意識した。
- ・住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。
- ・災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- ・災害時の準備、心の準備など勉強になった。
- ・この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。

■成果

○住民自身が、いつ、どこに避難するかを考え、避難時の注意点を共有した。定期的にマイハザードマップやタイムラインを確認する活動につながった。



■今後に向けて ~防災推進員を通して他地域へ展開~

○今回、三須地区で実施したマイハザードマップやタイムライン作成に用いた資料を研修セットとして防災推進員に提供し、他の地区で防災教育を展開するための支援を行う予定である。既に資料は防災推進員に提供済みであり、5月に防災訓練で活用予定である。



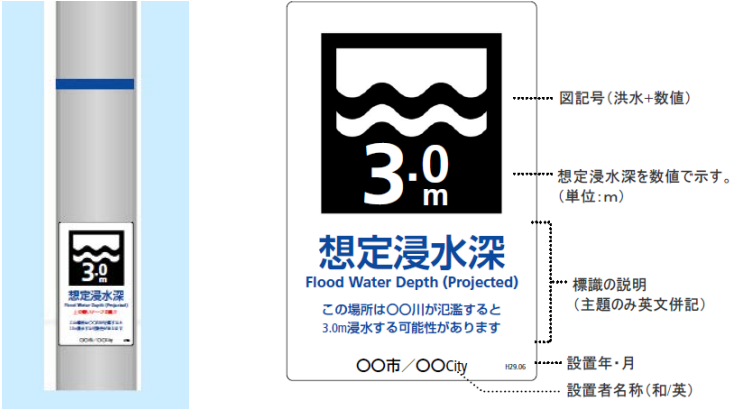
1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項

⑦ 平時からの水防災意識の向上を図るためのまるごとまちごとハザードマップの整備

【まるごとまちごとハザードマップの標記設置場所の選定】

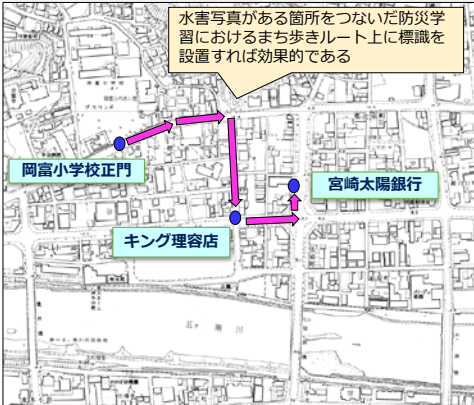
○学校、公民館、商店街、JR付近など多数の人に確認されやすい場所を考慮し、標識の設置場所の選定を行った。選定にあたっては、防災学習した効果を発揮できる場所への設置も考慮するなど、避難の動機づけが行われている箇所への設置についても留意し選定を行った。

標識の設置のイメージ



標識の設置場所の工夫（防災学習した効果を発揮できる場所への設置）

防災学習のまち歩きを想定したルート



水害マップ



標識の設置場所の選定の考え方

- 学校** → 正門付近の通学路は各方面からの学生が通過するので多数の学生に確認されやすい  
防災学習(まち歩き)のルート沿いに設置すれば防災学習効果が高まる可能性がある
- 公民館** → 防災講習会など地域住民が集まる場となるため、学んだ知識を生かせる
- 商店街** → 地域住民が買い物やイベント等で多数集まるので、確認しやすい
- JR付近** → 市外からの来訪者が通過するため多数の人に確認されやすい



■ 成果

○標識を設置する場所の選定(案)について、作成することができた。

■ 今後に向けて

～自治体との連携～

○今回、選定した結果を自治体に情報提供し、今後に向けて標識を設置するための調整を行う予定である。

⑨ 水位周知河川等の指定について検討・調整や簡易な方法を活用した情報提供など水害や土砂災害の危険性の周知促進  
【水害や土砂災害の危険性を周知するためイメージ映像の提供】再掲

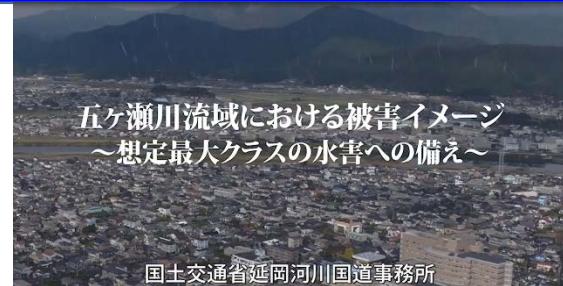
- ハザードマップの作成や訓練等に活用できるように、想定最大クラスの被害イメージ映像を作成した。
- 要配慮者施設管理者を対象とした講習会で、避難計画の検討支援として被害イメージ映像を提供した。
- 広く訓練等に活用できるようにホームページで閲覧できるように設定した。(2019.3.28 ホームページにアップ)



想定最大クラスの被害イメージ映像の提供

要配慮者施設講習会での情報提供 (H31.2.7実施)

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



浸水さらに拡大 避難が困難



氾濫後は車等が流されている

■ 要配慮者避難確保計画講習会に関する記事

2019年2月13日 夕刊デイリー

2019年2月15日 宮崎日日新聞

■ 成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。

■ 今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。



http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/

⑩ 浸水実績や土砂災害実績等の情報共有及び住民等への周知

【住民会議、要配慮者講習会、ホームページによる情報の周知】

- 住民を対象としたマイハザードマップづくりの会議で、水害や土砂災害の危険性を示す写真や映像を紹介した。
- 要配慮者講習会で、平成17年台風14号の水害映像の紹介、防災情報の入手方法について情報提供を行った。
- ホームページで、五ヶ瀬川流域における水害や土砂災害の被害イメージ映像を紹介した。

浸水実績等の紹介



マイハザードマップづくり(H30.12.2実施)

水害写真・水害映像の紹介



要配慮者講習会(H31.1.9実施)

被害イメージ映像の紹介



要配慮者講習会(H31.2.7実施)

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



■ 成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、いつ避難すべきかタイミングを検討する際の参考情報を示すことができた。

■ 今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス

<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

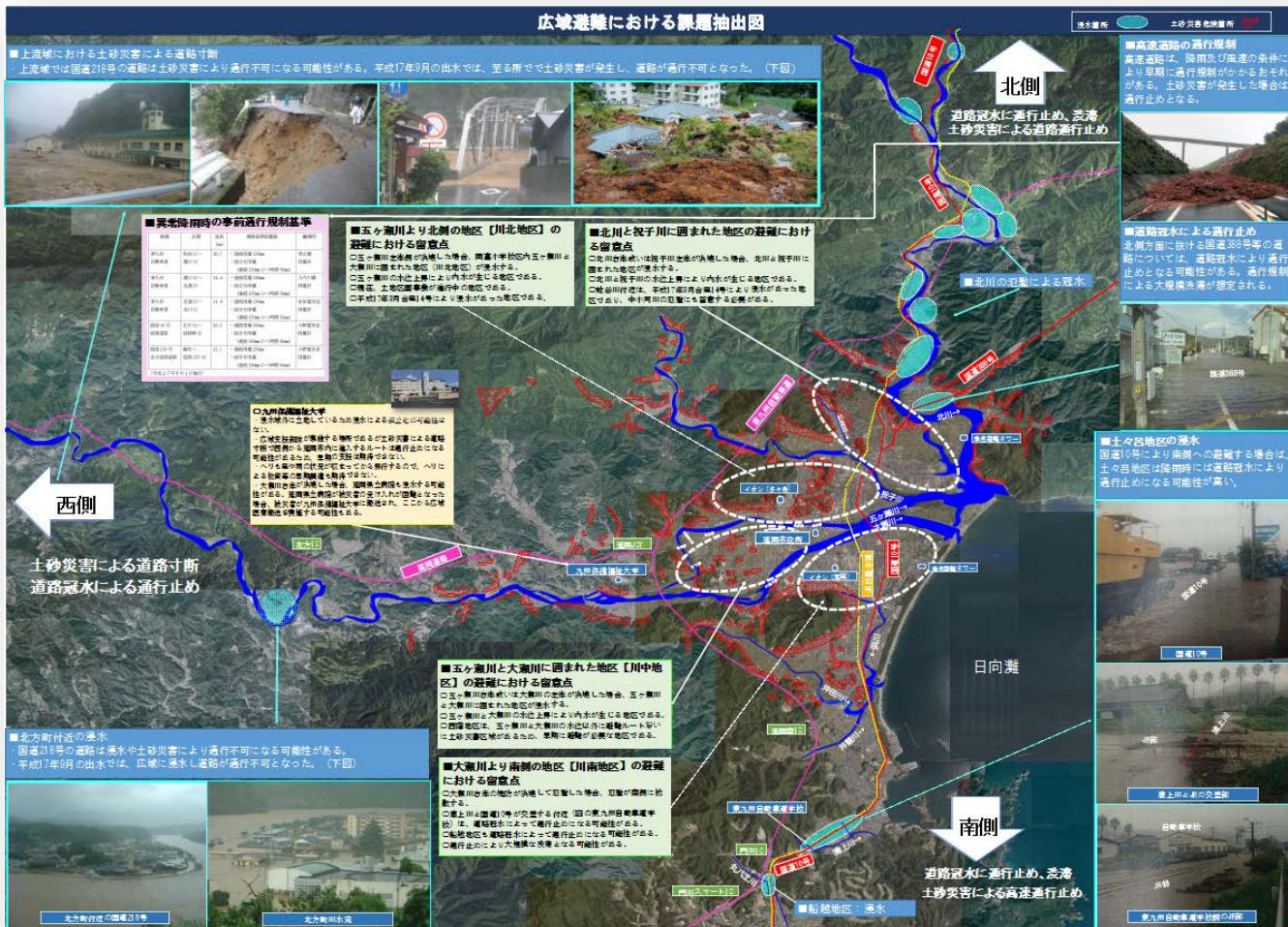
ホームページで閲覧可能



④洪水氾濫による被害軽減のための広域避難を含めた避難計画の検討

【広域避難における課題抽出図の提供】

- 自治体（延岡市）が広域避難を検討する上で留意すべき課題を課題抽出図として作成し、延岡河川国道事務所から自治体へ情報提供を行った。
- 課題抽出図には、土砂崩れによる避難路（国道218号）の寸断、道路冠水による大渋滞・避難の困難化（国道10号）等の課題を地図に明記し、現実的な避難計画が検討できるように支援を行った。



広域避難における課題の明確化

↓

当該地区の特性を踏まえた現実的な避難計画の検討

■ 成果と課題

○土砂崩れによる避難路（国道218号）の寸断、道路冠水による大渋滞・避難の困難化（国道10号）等の課題を地図に明記することで、広域避難における課題を可視化できた。これにより当該地区の特性を踏まえた現実的な避難計画の検討が可能となった。

■ 今後の予定

○自治体の方で広域避難の課題を踏まえ、現実的な避難計画の検討を進める予定。

⑤ 法律で義務化された要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進及び避難訓練等の支援

【要配慮者避難確保計画の支援】

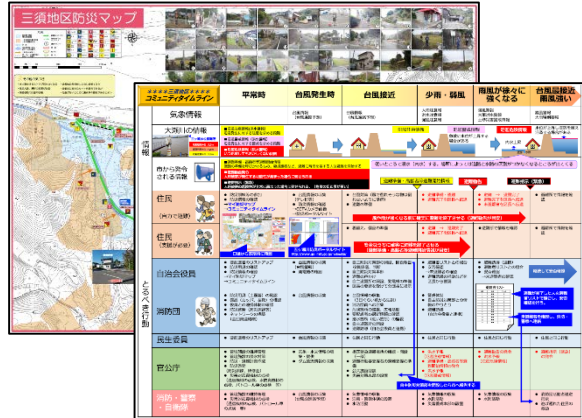
- 第1回講習会では、平成17年台風14号の水害映像の紹介、防災情報の入手方法について情報提供を行った。
- 第2回講習会では、要配慮者の避難確保計画の参考情報として、五ヶ瀬川流域における想定最大クラスの被害イメージ映像やマイハザードマップ及びタイムラインの作成事例について紹介を行った。



第1回講習会(H31.1.9実施)



第2回講習会(H31.2.7実施)



マイハザードマップとタイムラインの紹介

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



■ 成果

○ 要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。

■ 今後に向けて

○ 想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス



<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

3) 迅速かつ安全な避難に資する施設整備に関する事項

①洪水氾濫による被害の軽減のため、民間企業や福祉施設等と連携した指定避難所・指定緊急避難場所の確保

【要配慮者避難確保計画の支援】再掲

- 第1回講習会では、平成17年台風14号の水害映像の紹介、防災情報の入手方法について情報提供を行った。
- 第2回講習会では、要配慮者の避難確保計画の参考情報として、五ヶ瀬川流域における想定最大クラスの被害イメージ映像やマイハザードマップ及びタイムラインの作成事例について紹介を行った。



第1回講習会 (H31.1.9実施)



第2回講習会 (H31.2.7実施)



マイハザードマップとタイムラインの紹介

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



■成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、いつ避難すべきかタイミングを検討する際の参考情報を示すことができた。

■今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの被害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス



<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

# ① 浸水時の迅速な社会インフラの機能回復のための緊急排水計画等の検討

## 【排水作業準備計画】

- 浸水の早期解消を目指し、排水ポンプ車のアクセス及び配置が可能な箇所の抽出を行い、早期の緊急輸送路の啓開、防災拠点等の浸水解消を図ることを目的として排水作業準備計画書を作成した。
- 排水作業準備計画書には、排水ポンプ車の配置箇所までの進入ルートや配置可能台数等を整理した。

### ■ 排水作業準備計画書（一部抜粋）

排水ポンプ車の待機場所の候補地及び駐車可能台数を記載

現地写真を記載

排水ポンプ車侵入ルート図(五ヶ瀬川：氾濫ブロック)

ルート1-延岡に經由(延岡により所要時間約3分)  
 延岡に→県道241号(写真2)→県道241より分岐を左に進行(写真2)→五ヶ瀬川右岸堤防を下流に向け、進行(写真2)→排水予定地へ到着

浸水継続時間(hr) ※ランク別

- 12時間 - 2時間
- 24時間 - 7時間
- 48時間 - 7時間
- 72時間 -

× 堤防決壊地点  
 ● 浸水時通行不能想定箇所  
 ● 防災ステーション(建設予定地)  
 ● 災害対策車待機場所  
 ● 給油所(経路・待機場所付近)  
 ● ポンプ車作業地点  
 ● 樋門・樋管・ポンプ場  
 → ポンプ車進入経路

待機場所(案)

施設名	敷地面積(千㎡)	駐車可能台数(台)	管理
旭化成陸上競技場	27.19	約215	
延岡市立旭小学校	7.77	約60	延
延岡市立岡窪小学校	5.86	約45	延
延岡市立恒喜小学校	8.91	約55	延

氾濫ブロック	b-a	対象地区	延岡市	破堤地点	大瀬川 左岸ok2	排水地点	五ヶ瀬川 右岸ok1付近	堤防名称	
平面図	[Map showing flood area and infrastructure]						現地写真	[Photos of site]	
横断面	[Cross-section diagram]						排水長	約35m	
アクセスルート	[Access route diagram]						アクセスルート	【目前に經由】 延岡に→県道241号→分岐を左に進行→ 五ヶ瀬川右岸堤防を下流に向け進行→ 排水予定地へ到着	
							堤内地	耕作地	
							排水地点	五ヶ瀬川右岸堤防 ok1付近	
							注意事項等		
							特記事項		

氾濫状況に応じた排水ポンプ車の進入ルートを記載

排水ポンプ車の設置場所を記載

■ 成果

○ 事前に排水作業準備計画を作成しておくことで、決壊による氾濫後の早期浸水解消に向け、排水ポンプ車の配置箇所や進入ルートの判断を迅速に検討・調整することができる。

■ 今後の予定

○ 関係者に周知していく予定である。

② 企業で働く人々の家族・地域を守るための、企業向け水防災啓発活動の取組支援

【延岡市における被害様相図の情報提供】

○災害時に地域の社会経済システムを迅速に回復するために、関係機関と地域企業が連携した水防訓練を実施できるように、延岡市における被害様相（水害）を整理した図を地域企業に提供した。



地域企業への情報提供

■ 成果

○土砂災害による道路寸断や道路冠水による通行止めなど、延岡市における水害の被害様相が訓練被害想定を検討する際の参考となった。

■ 今後の予定

○想定最大クラスの被害イメージ映像を訓練で活用できるよう閲覧サイトを周知していく予定。



<http://www.qsr.mit.go.jp/nobeoka/>







# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

①地域の社会経済活動を継続するための大規模工場等への水害リスクの情報提供及び自衛水防(企業水防)の取組強化 **【延岡市における被害様相図の情報提供】再掲**

○災害時に地域の社会経済システムを迅速に回復するために、関係機関と地域企業が連携した水防訓練を実施できるように、延岡市における被害様相(水害)を整理した図を地域企業に提供した。



地域企業への情報提供

**■ 成果**  
○土砂災害による道路寸断や道路冠水による通行止めなど、延岡市における水害の被害様相が訓練被害想定を検討する際の参考となった。

**■ 今後の予定**  
○想定最大クラスの被害イメージ映像を訓練で活用できるよう**閲覧サイトを周知**していく予定。



<http://www.qsr.mit.go.jp/nobeoka/>



④防災体制強化のため、各地区で防災推進員等による勉強会を実施し組織結成率を向上

【防災推進員への研修セットの提供】

- 地域リーダー（防災推進員等）が地域住民に防災教育を行うための支援ツールを提供した。
- 支援ツールは、地域リーダーが自ら活用できるように、マイハザードマップ（まち歩きと避難経路の確認の仕方）とタイムライン（避難のタイミングの検討）の作成手順を事例をつけて分かるように示した。

### 研修セットについて

◆研修セット：地域リーダーが地域住民に防災教育を行うための支援ツール

みなさんの地区で実践できるような手順書として作成しています！

＜セットの特徴＞

- 消防団、防災推進員の活用を想定
- マップの作成方法、研修の進め方の手順等をケーススタディに沿って説明
- 写真や作成事例、作成のポイントを記載

◆内容：「マイハザードマップ」と「コミュニティタイムライン（避難のタイミング）」の作成手順を整理

他地区で実践できるように、ハザードマップとコミュニティタイムライン（避難のタイミング）の作成手順を整理しています。

実際の作成状況を事例を紹介しながら整理しています。

作成事例もあります

マイハザードマップ

### 研修セットに入っている資料

◆第1回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆第2回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆まち歩きセット

◆マイハザードマップ（作成事例：三須地区）

◆コミュニティタイムライン（作成事例：三須地区）

DVD

◆第1回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆マイハザードマップ（作成事例：三須地区）

◆水害の映像（平成17年9月台風14号）

◆第2回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆コミュニティタイムライン（作成事例：三須地区）

◆防災シール

◆まち歩きセット 安全・危険ポイント

◆チェックシート

写真番号 ①

### 作成事例

第1回 三須地区マイハザードマップづくり～まち歩きで危険箇所を確認、マイハザードマップの作成～

第2回 三須地区マイハザードマップづくり～マイハザードマップの作成、コミュニティタイムラインの作成～

第3回 三須地区マイハザードマップづくり～全員で避難の書き込みを継続確認、継続活用について共有～

### ■防災体制強化のしくみづくり

～地域の人材による継続的な勉強会等の実施～

国土交通省 延岡河川国道事務所

↓ 地域リーダーへ研修セットの提供

地域リーダー（防災推進員等）

↓ 研修セットを活用した勉強会の実施

地域住民

各地域で展開

### ■成果

○今回、三須地区で実施したマイハザードマップやタイムライン作成に用いた資料を研修セットとして防災推進員に提供し他の地区で防災教育を展開することとなった。これにより地域の人材によって継続的に実践的な防災を学ぶ機会が増えることで防災体制を強化する仕組みづくりができた。

### ■今後に向けて

～防災推進員を通して他地域へ展開～

○防災推進員が研修セットを使って地域住民を対象に避難経路やタイミングを考える講習会を実施する予定である。（5月の訓練で活用予定）

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組

①防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、水防災教育等の推進【再掲】 **【三須地区におけるマイハザードマップ・タイムライン作成】再掲**

- 第1回会議は、防災に関する基礎知識の習得とまち歩きとマイハザードマップづくりを行った。
- 第2回会議は、避難のタイミングを検討するタイムラインの検討を行った。
- 第3回会議は、今後の運用について定期的に訓練等でマイハザードマップとタイムラインを確認することを決定した。



第1回会議 (H30.12.2実施)



第2回会議 (H30.12.16実施)



第3回会議 (H31.1.27)

■参加者の感想 **～日頃からの動機づけが大切～**

- ・自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- ・繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- ・災害における対策を考える時間となり良かった。
- ・日頃から意識づけがとても大切。
- ・自分の家が浸水するのがはっきり理解できた。
- ・危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- ・各自が危険と認識し、努力することになります。
- ・避難に対する認識の甘さを改めて感じた。
- ・今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- ・自主防災の大切さを改めて意識した。
- ・住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。
- ・災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- ・災害時の準備、心の準備など勉強になった。
- ・この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。

■成果

- 住民自身が、いつ、どこに避難するかを考え、避難時の注意点を共有した。定期的にマイハザードマップやタイムラインを確認する活動につながった。



■今後に向けて **～防災推進員を通して他地域へ展開～**

- 今回、三須地区で実施したマイハザードマップやタイムライン作成に用いた資料を研修セットとして防災推進員に提供し、他の地区で防災教育を展開するための支援を行う予定である。既に資料は防災推進員に提供済みであり、5月に防災訓練で活用予定である。



②地域の連携強化のための地域防災マップ作成の出前講座【再掲】

【三須地区におけるマイハザードマップ・タイムライン作成】再掲

- 第1回会議は、防災に関する基礎知識の習得とまち歩きとマイハザードマップづくりを行った。
- 第2回会議は、避難のタイミングを検討するタイムラインの検討を行った。
- 第3回会議は、今後の運用について定期的に訓練等でマイハザードマップとタイムラインを確認することを決定した。



第1回会議 (H30.12.2実施)



第2回会議 (H30.12.16実施)



第3回会議 (H31.1.27)

■参加者の感想 ~日頃からの動機づけが大切~

- ・自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- ・繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- ・災害における対策を考える時間となり良かった。
- ・日頃から意識づけがとても大切。
- ・自分の家が浸水するのがはっきり理解できた。
- ・危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- ・各自が危険と認識し、努力することになります。
- ・避難に対する認識の甘さを改めて感じた。
- ・今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- ・自主防災の大切さを改めて意識した。
- ・住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。
- ・災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- ・災害時の準備、心の準備など勉強になった。
- ・この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。

■成果

- 住民自身が、いつ、どこに避難するかを考え、避難時の注意点を共有した。定期的にマイハザードマップやタイムラインを確認する活動につながった。



■今後に向けて

~防災推進員を通して他地域へ展開~

- 今回、三須地区で実施したマイハザードマップやタイムライン作成に用いた資料を研修セットとして防災推進員に提供し、他の地区で防災教育を展開するための支援を行う予定である。既に資料は防災推進員に提供済みであり、5月に防災訓練で活用予定である。

1) 水害・土砂災害の教訓の伝承及び水防災教育の推進に関する事項

③自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進

**【防災学習指導計画の提供】**

○防災学習指導計画は、流域住民に対して防災学習を指導する立場にある地域リーダー（消防団、防災推進員等）や学校現場の方（教員等）を対象に、水防災教育としています。



地域リーダーが避難経路や避難のタイミングを住民に教える資料として活用できます。

教員が防災授業「自然災害を防ぐ」で、「自分たちの命を守るためにできることは何か」について子供たちに考えさせるための資料として活用できます。



避難経路の検討 (マイハザードマップ)

	平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	雨風が徐々に強くなる	台風接近 雨風強い
気象情報	気象庁の気象情報	気象庁の気象情報	気象庁の気象情報	気象庁の気象情報	気象庁の気象情報	気象庁の気象情報
大衆川の浸水	大衆川の浸水	大衆川の浸水	大衆川の浸水	大衆川の浸水	大衆川の浸水	大衆川の浸水
河川からの洪水	河川からの洪水	河川からの洪水	河川からの洪水	河川からの洪水	河川からの洪水	河川からの洪水
住民	住民	住民	住民	住民	住民	住民
自治会役員	自治会役員	自治会役員	自治会役員	自治会役員	自治会役員	自治会役員
消防団	消防団	消防団	消防団	消防団	消防団	消防団
民生委員	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員
官公庁	官公庁	官公庁	官公庁	官公庁	官公庁	官公庁

避難のタイミングの検討 (コミュニティタイムライン)



- (子供たちの意見) 自分たちでできること
- 避難する場所を決めておく
  - 避難訓練を真剣にする
  - 普段から水害があった場所を確認しておく
  - 大丈夫だと思わないで早めに避難する
  - 地形を知る
- など



自分たちでできることは？

自分たちでできることについて意見を共有

③自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進

【防災学習指導計画の一例：地域リーダー向け】

地域リーダーの役割

◆研修セット：地域リーダーが地域住民に防災教育を行うための支援ツール

みなさんの地区で実践できるような手順書として作成しています！

<セットの特徴>

- 消防団、防災推進員の活用を想定
- マップの作成方法、研修の進め方の手順等をケーススタディに沿って説明
- 写真や作成事例、作成のポイントを記載

◆内容：「マイハザードマップ」と「コミュニティタイムライン（避難のタイミング）」の作成手順を整理

他地区で実践できるように、ハザードマップとコミュニティタイムライン（避難のタイミング）の作成手順を整理しています。

研修セットの中身

◆第1回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆第2回ワークショップ説明資料（パワーポイント）

◆まち歩きセット

◆マイハザードマップ（作成事例：三須地区）

◆コミュニティタイムライン（作成事例：三須地区）

研修セット DVD

写真番号 ①

進め方のフロー

実施地区の決定

役割分担の決定

準備品の確認

スケジュールの作成

ワークショップの進め方

- 第1回ワークショップ：マイハザードマップの作成
  - ◆第1回説明資料
  - 『洪水被害に備える』マイハザードマップ作成
- 第2回ワークショップ：コミュニティタイムラインの作成
  - ◆第2回説明資料
  - 『洪水被害に備える』コミュニティタイムライン作成
- 第3回ワークショップ

活用・継続・見直し

水害に関する基礎知識

まち歩き

マイハザードマップ作成

マイハザードマップの確認

コミュニティタイムラインの説明

コミュニティタイムラインの作成

マイハザードマップ、コミュニティタイムラインの完成報告

活用方法の検討

研修セットとの対応

- ◆水害の映像 (平成17年9月台風14号)
- ◆マイハザードマップ (作成事例：三須地区)
- ◆まち歩きセット：防災シール、安全・危険ポイント、チェックシート
- ◆コミュニティタイムライン (作成事例：三須地区)

資料の一例

①マイハザードマップの確認

○第1回マイハザードマップマップづくりの成果を確認

第1回で実施したマイハザードマップ作成の成果を確認して、危険箇所や避難ルート、必要な補足情報を共有

②まち

2. まち歩きを実施し

②コミ

○避難に関する課題を災害の教訓として同じするために、平常時から対峙（避難のタイミング）

<主な項目>

- ◆ 災害の教訓
- ◆ 被災者の体験談から学ぶ
- ◆ コミュニティタイムラ
- ◆ コミュニティタイムラ

<主な意見（事例：三須地区ワークショップ）>

- ◆ 地盤が低く、浸水しやすい道路がわかるように
- ◆ 内水氾濫が起こりやすい場所や浸水圧力がわかるように
- ◆ 浸水深を示す標識が現地に表示してほしい
- ◆ 主要避難経路を矢印で表示させる

写真番号 ②

1) 水害・土砂災害の教訓の伝承及び水防災教育の推進に関する事項

③自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進  
**【防災学習指導計画の一例：学校現場向け】 マイハザードマップの作成**

防災の授業（1コマ目）  
 ～水害の怖さを知り、自分たちでできることを考える～

①単元導入 延岡市内で起こった水害写真と映像で水害の怖さを知る

この映像は実際に平成17年に延岡市で起こった災害の映像です。

水害の写真を見てふだんとの違いを知る

**現在の写真** 平成20年1月16日に撮影した写真です

**水害の写真** 平成17年9月の台風14号のときの写真です

実際に市内で起こった映像を見て水害の怖さを知る

実際に市内で起こった映像を見て水害の怖さを知る

現在と水害時を比べて水害の怖さを知る

平成17年の水害の写真と現在と比較したものです。こうなる前に避難しないといけない！

市内で起こった水害の映像を見て水害の怖さを知

現在と水害時を比べて水害の怖さを知る

想定される最大の水害マップを使って自分のまちのリスクを知る

もし、想定される最大の水害になったらどうなると思う？平成17年の雨の1.3倍の雨が降ったとして考えてみよう！

想定最大クラスの雨が降ったときの水害マップ（平成17年のときの約1.3倍の雨の量）

②自分たちでできることを考える

グループごとに集まり、自分たちでできることを意見交換してもらいます。意見交換はフセン紙とワークシートを活用します。

**避難の際に危険な箇所を確認してみよう**

- ①低い地盤（日頃から水たまりになりやすい箇所）
- ②蓋のない水路、田んぼなど転落すると危険な箇所
- ③大きな段差や急な坂
- ④土砂災害・土石流のおそれがある箇所
- ⑤鉄砲水で急激に水位が上昇し溢れる水路 など

次の授業で実際にまちを歩いて危険な箇所を確認してみよう！マイハザードマップをつくってみよう！

水害のときにどんなことが困るかな	日頃からどんなことが準備できるかな
避難するところかわからない	避難経路を確認しておく
どこに逃げれば安全かわからない	おがしの水害があったところを知っておく
夜だと歩くのが怖い	避難訓練をする
	家族でよくぞくことを決めておく

フセン紙とワークシートを使ってできることを書き出す

防災の授業（2コマ目）  
 ～まち歩き探検で危険箇所を確認、マイハザードマップをつくる～

①実際に地域を歩いてみる 自ら危険箇所を確認する

フタのない水路があるね。浸水すると道路と区別がつかないから危険！

このあたりはどうか？考えてみて

危険な箇所は地図に記入していく

まち歩き

くずれそうな場所がある

フタのない水路がある

このあたりはどうか？考えてみて

危険な箇所は地図に記入していく

くずれそうな場所がある

フタのない水路がある

②マイハザードマップをつくる フセン紙やシールでまち歩きの結果

気づいたことをフセン紙に記入

マイハザードマップづくり

シールも活用

③成果を発表する 成果を発表し、お互いの気づきについて考えを共有する

成果の発表

僕たちの班は。。

各班で発表

おうちに帰って家の人と実際に避難について考えよう

③自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進  
**【防災学習指導計画の一例：学校現場向け】タイムラインの作成**

防災の授業（1コマ目）

～水害の怖さを知り、自分たちでできることを考える～

①単元導入 延岡市内で起こった水害写真と映像で水害の怖さを知る

この映像は実際に平成17年に延岡市で起こった災害の映像です。

水害の写真を見てふだんとの違いを知る

現在の写真	水害の写真
平成30年1月16日に撮影した写真です	平成17年9月の台風14号のときの写真です

実際に市内で起こった映像を見て水害の怖さを知る

実際に市内で起こった映像を見て水害の怖さを知る

現在と水害時を比べて水害の怖さを知る

平成17年の水害の写真を現在と比較したものです。こうなる前に避難しないとイケない！

最大クラスの水害がきたらどうなるか考えてみよう

もし、想定される最大の水害になったらどうなると思う？平成17年の雨の1.3倍の雨が降ったとして考えてみよう！

想定最大クラスの雨が降ったときの水害マップ（平成17年のときの約1.3倍の雨の量）

②自分たちでできることを考える

水害のときにどんなことが困るかな	日頃からどんなことが準備できるかな
避難するところがわからない	水が浸かっで掛けない
どこに逃げれば安全なのかわからない	強い風で木が倒れたりする
夜だと暗くて道が見えない	家族でやくそくを決めておく

避難所を確認しておく

避難訓練をする

むかしの水害があったところを知っておく

家族でやくそくを決めておく

フセン紙とワークシートを使ってできることを書き出す

グループごとに集まり、自分たちでできることを意見交換してもらいます。

意見交換はフセン紙とワークシートを活用します。

**国や市に行って確認してみよう**

- ①地域で起こり得る災害について確認してみよう
- ②防災情報の発信について確認してみよう
- ③避難についての取組について確認してみよう

次の授業で実際に国土交通省や市役所に行ってどんな情報がでるか確認してみよう！

防災の授業（2コマ目）

～避難のタイミングを確認、タイムラインをつくる～

①避難のタイミングを考える 被害の映像を見て避難のタイミングを考える

国土交通省から提供された情報を参考に考えてみる

市役所に聞いてみよう

国土交通省に聞いてみよう

台風発生から被害が発生するまでのビデオを見て、いつ避難するべきかを考える

②タイムラインをつくる いつどのような行動をとるかを整理する

タイムラインづくり

いつ、どのような行動をとるかをフセン紙に書き出す

③成果を発表する 成果を発表し、お互いの気づきについて考えを共有する

成果の発表

僕たちの班は。。

各班で発表

おうちに帰って家の人と実際に避難について考えよう

⑤防災意識の啓発を目的とした防災研修会やワークショップ等の開催

【自治会、小学生、要配慮者施設管理者を対象にした防災教育の推進】再掲

- 住民を対象としたマイハザードマップづくりの会議で、水害や土砂災害の危険性を示す写真や映像を紹介した。
- 小学生を対象にした防災授業では、昨年度と同様に水害写真集や模型等を用いて実施された。⇒継続実施
- 要配慮者避難確保講習会で、五ヶ瀬川流域における想定最大クラスの被害イメージ映像を紹介した。



自治会を対象にした防災教育



小学生を対象にした防災教育  
※昨年から継続実施



要配慮者施設管理者を対象にした防災教育

マイハザードマップづくり(H30.12.2実施) 岡富小学校における防災授業(H31.2.26実施) 要配慮者避難確保講習会(H31.2.7実施)

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例

五ヶ瀬川流域における被害イメージ  
～想定最大クラスの水害への備え～

国土交通省延岡河川国道事務所

浸水さらに拡大 避難が困難

イメージ映像

氾濫が一気に拡大

氾濫後は車等が流されている

■ 成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。

■ 今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス

ホームページで閲覧可能

http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/

⑨ 水位周知河川等の指定について検討・調整や簡易な方法を活用した情報提供など水害や土砂災害の危険性の周知促進【再掲】 **【水害や土砂災害の危険性を周知するためイメージ映像の提供】 再掲**

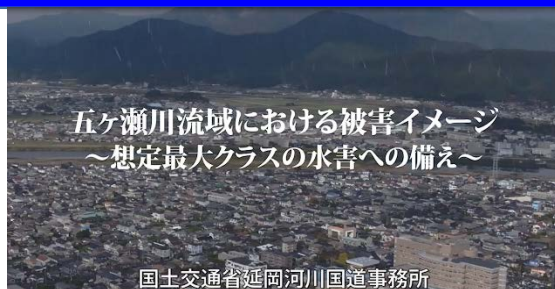
- ハザードマップの作成や訓練等に活用できるように、想定最大クラスの被害イメージ映像を作成した。
- 要配慮者施設管理者を対象とした講習会で、避難計画の検討支援として被害イメージ映像を提供した。
- 広く訓練等に活用できるようにホームページで閲覧できるように設定した。(2019.3.28 ホームページにアップ)



想定最大クラスの被害イメージ映像の提供

要配慮者施設講習会での情報提供 (H31.2.7実施)

情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例



■ 要配慮者避難確保計画講習会に関する記事



2019年2月13日 夕刊デイリー



2019年2月15日 宮崎日日新聞

■ 成果

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、**決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、避難のタイミングを検討する際の参考情報を分かりやすく示すことができた。**

■ 今後に向けて

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように**閲覧サイトの情報を周知**していく予定。



<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

⑩ 浸水実績や土砂災害実績等の情報共有及び住民等への周知【再掲】

【住民会議、要配慮者講習会、ホームページによる情報の周知】再掲

- 住民を対象としたマイハザードマップづくりの会議で、水害や土砂災害の危険性を示す写真や映像を紹介した。
- 要配慮者講習会で、平成17年台風14号の水害映像の紹介、防災情報の入手方法について情報提供を行った。
- ホームページで、五ヶ瀬川流域における水害や土砂災害の被害イメージ映像を紹介した。



浸水実績等の紹介

マイハザードマップづくり(H30.12.2実施)



水害写真・水害映像の紹介

要配慮者講習会(H31.1.9実施)



被害イメージ映像の紹介

要配慮者講習会(H31.2.7実施)

**情報提供した五ヶ瀬川流域における被害イメージ映像の一例**

五ヶ瀬川流域における被害イメージ  
～想定最大クラスの水害への備え～

国土交通省延岡河川国道事務所

浸水さらに拡大 避難が困難

氾濫が一気に拡大

氾濫後は車等が流されている

**■ 成果**

○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保計画に関する講習会では、決壊前における内水等の浸水拡大のイメージを示し、いつ避難すべきかタイミングを検討する際の参考情報を示すことができた。

**■ 今後に向けて**

○想定最大クラスの被害イメージ映像を広く活用されるように閲覧サイトの情報を周知していく予定。

五ヶ瀬川流域における被害イメージ～想定最大クラスの水害への備え

イメージ映像閲覧用のアドレス

<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>

**ホームページで閲覧可能**



# 平成30年度の実施取組内容

宮崎地方気象台

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

⑧ICTを活用した洪水情報・大雨警報情報・土砂災害警戒情報の提供

【ICTを活用した洪水情報・大雨警報情報・土砂災害警戒情報の提供】

【取組概要】

- 防災気象情報の改善として、「警報級の可能性」、「大雨警報（浸水害）の危険度分布」等をスマートフォン版ホームページを本年1月に作成しました。現在、利用推進中です。
- 「大雨警報（浸水害）の危険度分布」は、平成29年度出水期からホームページ（PC版）で提供開始しており、GPS機能を利用しスマートフォンからも使い易くしました。
- 火山（霧島山関連）情報も確認しやすい画面としました。

【トップメニュー】

 <b>宮崎地方気象台</b> <small>Miyazaki Meteorological Office</small>			
天気予報		●天気予報や実況データをご覧いただけます	
アメダス			
レーダー		●各種の危険度分布や詳細な雨の予測です	
大雨警報(浸水害)の危険度分布	洪水警報の危険度分布		
土砂災害警戒判定メッシュ情報	雨の予想(ナウキャスト)	●現在の警報・注意報の発表状況と、今後の警報発表の見通しです	
警報・注意報			
警報級の可能性		●火山（霧島山関連）の情報です	
火山（霧島山関連）		●その他、台風や地震などの情報へのリンクです	
リンク		気象状況の把握に有用な各種コンテンツを集めて掲載しております。屋外活動時などぜひ、ご活用ください。 	
宮崎地方気象台 【 Access 】 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島5丁目1-4 【 Tel 】 0985-25-4033			
PC   モバイル <a href="#">このホームページについて</a>			

■成果と課題

- 気象台のホームページの中から、天気予報・アメダスや、災害時にご覧いただくことの多い気象情報や大雨・洪水の危険度分布、霧島山の火山情報などをコンパクトにまとめ、スマートフォンから容易に情報入手が可能となった。
- 洪水警報の危険度分布等、スマートフォンのGPS機能により所在地での危険度を確認できるようになった。

○住民への周知が不足している。

■令和元年度の予定

- 出前講座、各種会議等を利用し、住民への普及啓発活動を実施する。



QRコード  
ご利用ください。

# 平成30年度の実施取組内容

## 宮崎県砂防課

# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

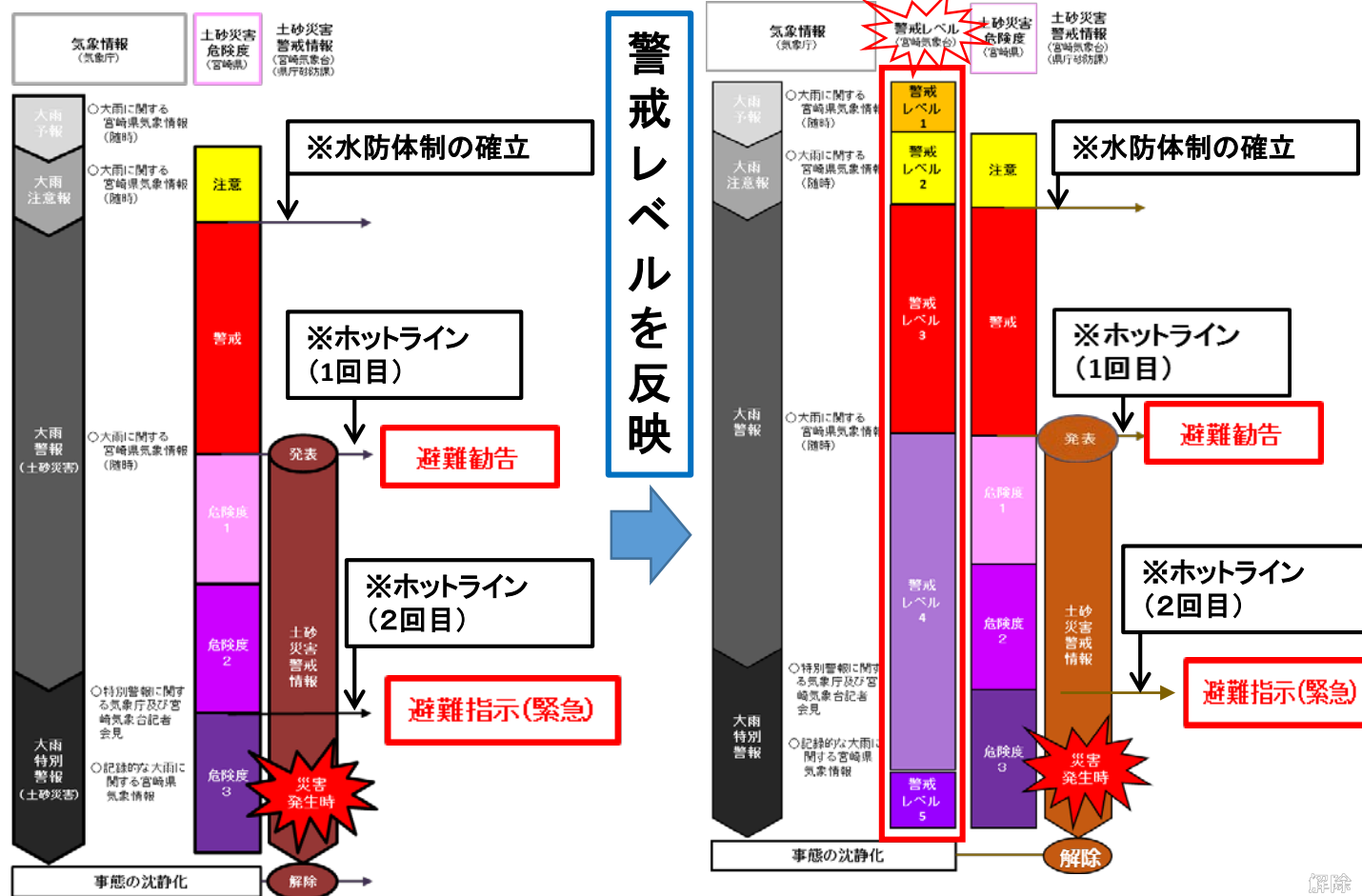
1) 防災活動の効率化及び防災体制の強化に関する事項

④ 確実な情報伝達のためのホットラインによる行政間の緊急連絡体制の確認・検討

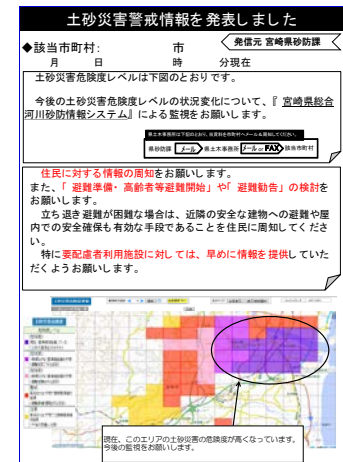
**【警戒レベル導入に伴うホットライン(土砂災害)注意事項】**

- 内閣府により「避難勧告等に関するガイドライン」が改訂され、「警戒レベル」が5月29日より導入されます。土砂災害危険度と関連付けると、警戒レベル2が「注意」、警戒レベル3が「警戒」、警戒レベル4が「危険度1, 2, 3」に当てはまります。なお、ホットラインのタイミングは今までと変わりません。
- 情報を迅速に発信するため、「土砂災害警戒情報の根拠資料」の様式を変更します。

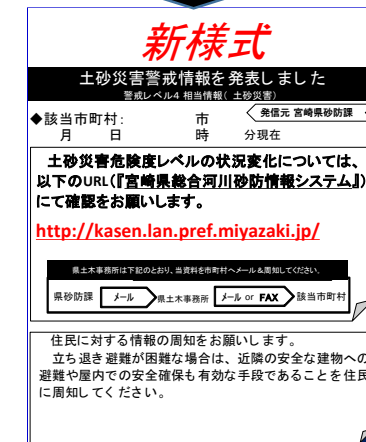
**【タイムライン】**



**旧様式**



**新様式**



# 平成30年度の実施取組内容

延岡土木事務所

# ハード対策



## ① 整備計画規模に対応した河道掘削等の実施

- |       |              |                               |
|-------|--------------|-------------------------------|
| ○五ヶ瀬川 | 水防災事業を実施中    | 平成30年度は細見地区で輪中堤整備を推進          |
| ○北川   | 水防災事業を実施中    | 平成30年度は差木野地区等で宅地嵩上げによる浸水対策を推進 |
| ○祝子川  | 広域河川改修事業を実施中 | 平成30年度は桑平地区で護岸整備を推進           |



五ヶ瀬川 細見地区



北川 差木野地区



祝子川 桑平地区

## ■ 令和元年度の予定

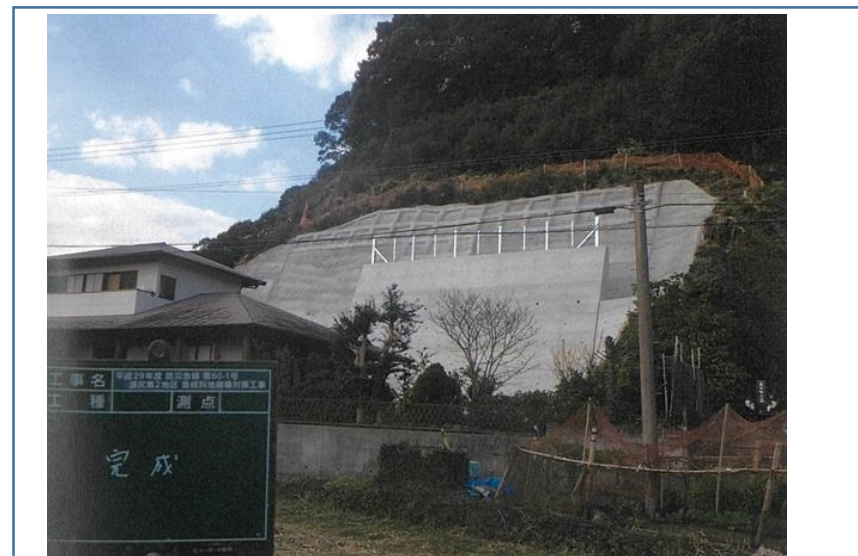
- 五ヶ瀬川では、細見地区の輪中堤整備を推進します。
- 北川では、差木野地区等で宅地嵩上げによる浸水対策を推進します。
- 祝子川では、宇和田地区の堤防補強対策や大野地区の樋門工事等を推進します。
- 防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策により、河川の樹木伐採、掘削を実施します。

## ①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

- 平成30年度施工箇所 砂防 3箇所 急傾斜 6箇所
- 平成30年度事業費 C = 388百万円（補正予算含む）



三足地区



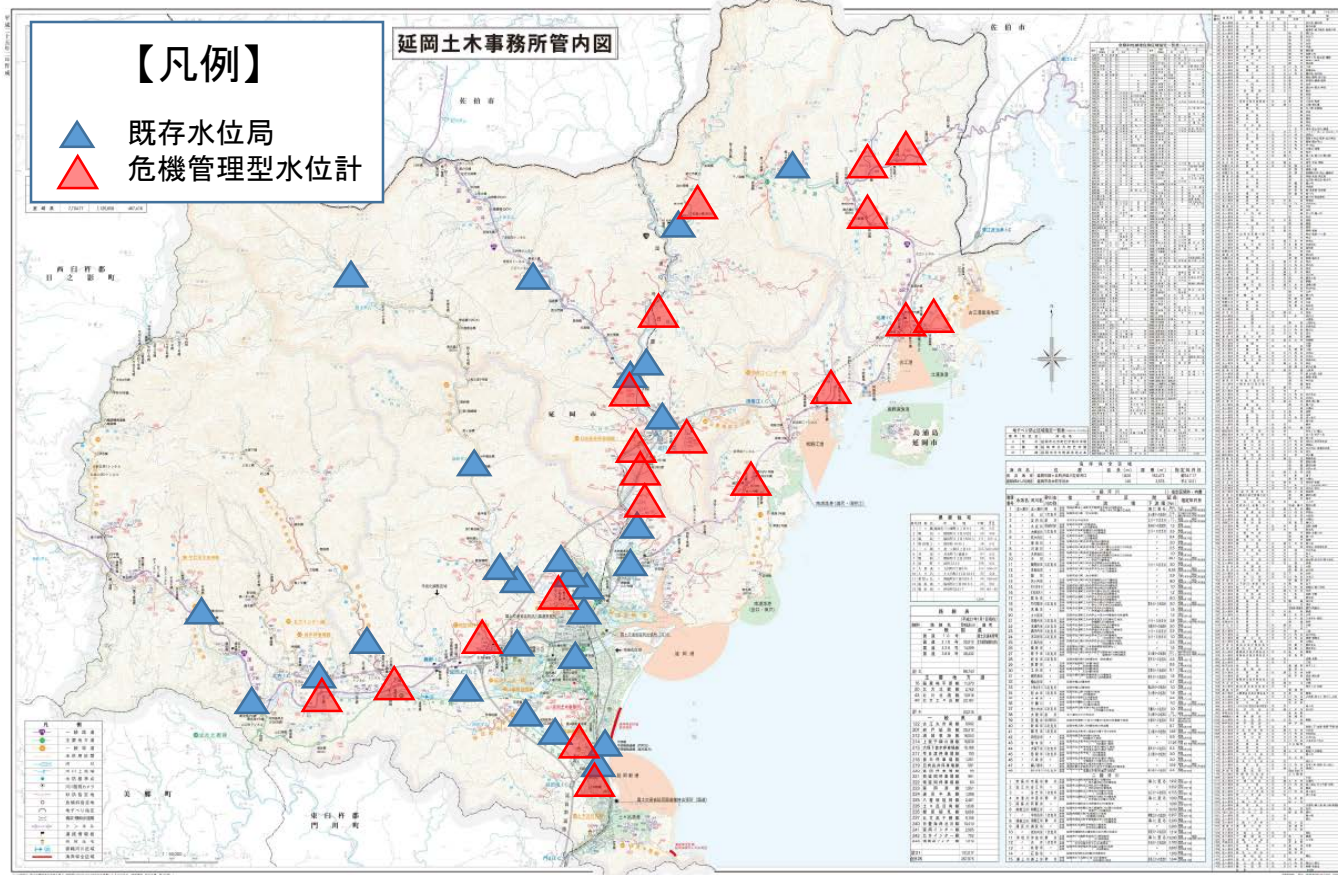
浦尻第2地区

- ハード対策により、人家、避難路等の保全が図られた。
- 今後も計画的にハード対策を推進していく。
- また、ハード対策に合わせ、必要に応じて津波避難路の整備を行っていく。

## ⑧ 安定した雨量・水位情報等を提供できるよう観測局等の機能の向上を図るとともに適切な維持管理に努める

### 【危機管理型水位計の設置】

- 身近な河川の水位を住民の方に情報提供できるよう危機管理型水位計の設置（N=20基）を推進。
- 3月までに7基が完成し、残る13基についても7月までに設置を完了する予定。



設置例：小川梅木橋（北浦町）



国や県のウェブサイトで公開。

- 身近な地区を流れる河川において、洪水時の水位情報を住民の方々にお示しすることにより、避難を判断するための材料になるものと期待しています。

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

## ① 想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図等の策定・公表

## 【想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図等の公表】

- 五ヶ瀬川、祝子川、北川、小川 洪水浸水想定区域図作成及び公表
- 沖田川 洪水浸水想定区域図作成及び公表

## ■ 洪水浸水想定区域図の見直しと公表

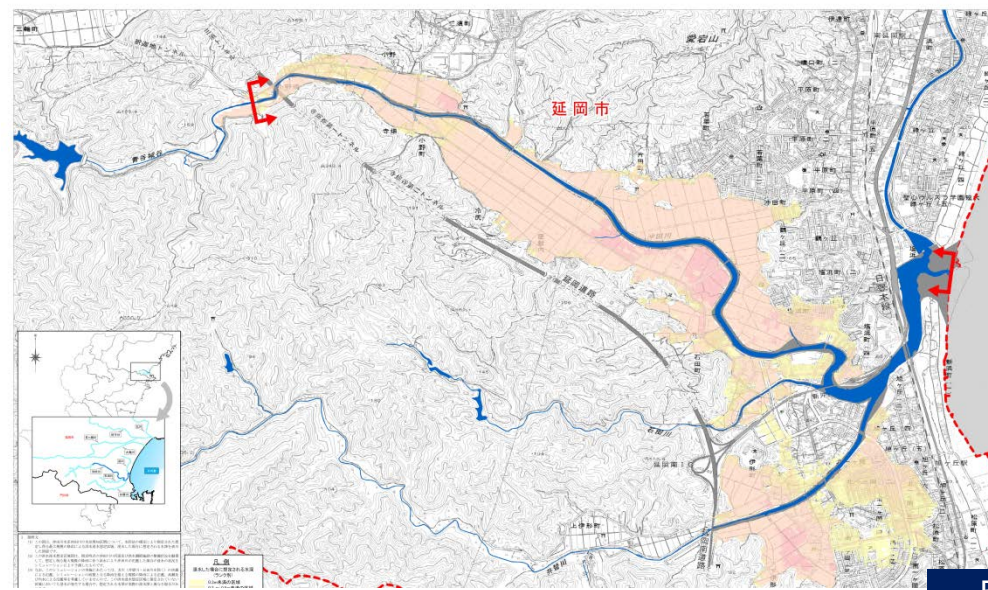
- 洪水浸水想定区域図について、これまでの計画規模のものから、想定し得る最大規模の降雨（概ね1000年に1回の確率）を前提とした洪水によるものを作成することとなり、延岡土木事務所では、管理する河川の水位周知区間（5河川）について、浸水想定区域図の作成を進めてきました。
- 五ヶ瀬川、祝子川、北川、小川については、平成30年12月に公表。
- 残る沖田川についても、平成31年3月に公表したところ。
- 近年、施設計画を越える豪雨災害が発生するなか、人命を守り、社会経済の被害の最小化を図るための対策を検討し、準備しておくための基礎資料になるものと期待。

## ■ 洪水浸水想定区域図作成箇所



## ■ 洪水浸水想定区域図作成例

沖田川水系沖田川洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

## ⑤ 迅速かつ円滑な防災対応のための関係機関が連携した水防訓練や情報伝達訓練の実施

- 平成30年度延岡地区防災対策会議の実施
- 平成30年度延岡地区防災訓練の実施



参加人数: 約40人

延岡地区防災対策会議(H30.5.16実施)



参加人数: 約50人

延岡地区防災訓練(H30.5.25実施)



○大規模災害時の応急対策業務等について県と協定を結んでいる団体と、国土交通省、延岡土木事務所、延岡市で出水期前に会議を行い、平成17年の大水害を教訓にしながら、大規模災害発生時の連絡体制、協定内容、資機材の備蓄状況等の確認を行い、今後起こりうる大規模災害発生時の防災対策に備えた。

○北川川坂地区において、大規模な出水による堤防破堤の危険性が高まったことを想定し、水防警報の伝達訓練、ホットラインによる市への情報伝達、関係団体へ協定に基づく対応の要請、現地において水防工法の実習を行った。

(参加団体)

延岡土木事務所、延岡市、延岡地区建設業協会、宮崎県舗装協会、宮崎県法面保護協会、宮崎県測量設計業協会、県北生コン協同組合、宮崎県産業資源循環協会、宮崎県クレーン協会、宮崎県警備業協会、稲尾リース(株)

<効果>

- ・連絡体制、対応範囲、備蓄資材等について国、県、市、協定締結団体との情報共有が図られた。
- ・各団体の状況、今後必要な対応等について意見交換ができた。

<課題>

- ・継続的な取り組みが必要

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組



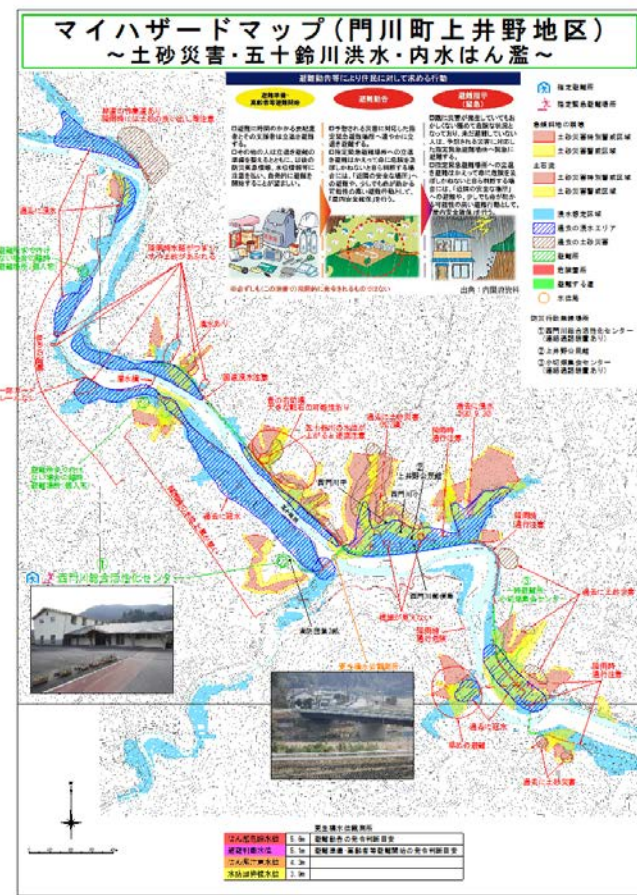
②地域の連携強化のための地域防災マップ作成の出前講座【門川町によるマイハザードマップ作成の支援】再掲

- 近年では、全国各地で土砂災害による甚大な被害が発生し、多くの方が犠牲となっている。県では災害時に身を守るために有効とされているマイハザードマップ（地域防災マップ）の作成を推進している。
- 平成30年度は、門川町西門川地区においてマイハザードマップの作成を支援した。

現場確認状況



完成図



マップ作成状況



【ハザードマップ作成までの流れ】

1. 現地確認
  2. 机上確認
  3. マップ作成
  4. マップのデータ化・印刷 (県)
- (住民・防災士・市町村・県)

マイハザードマップ

③自ら判断して避難できる人材育成を目的とした学校、自治会、自主防災組織等への水防災教育の推進

- 平成30年度土砂災害防止講座の実施
- 平成30年度土砂災害防止教室の実施



土砂災害防止講座（若葉地区）（H30.6.10実施）

参加人数：約33人



土砂災害防止教室（岡富小）（H30.5.19実施）

参加人数：約49人

県民の方々に土砂災害防止に対する理解と関心を一層深めていただくとともに、土砂災害から身を守るための防災知識の普及・啓発を図っています。

その一環として小学生を対象とした土砂災害防止教室、要配慮者の避難行動を補助する立場の要配慮者利用施設の職員等を対象とした「土砂災害防止講座」を実施しました。

# 平成30年度の実施取組内容

## 西白杵支庁

# ハード対策

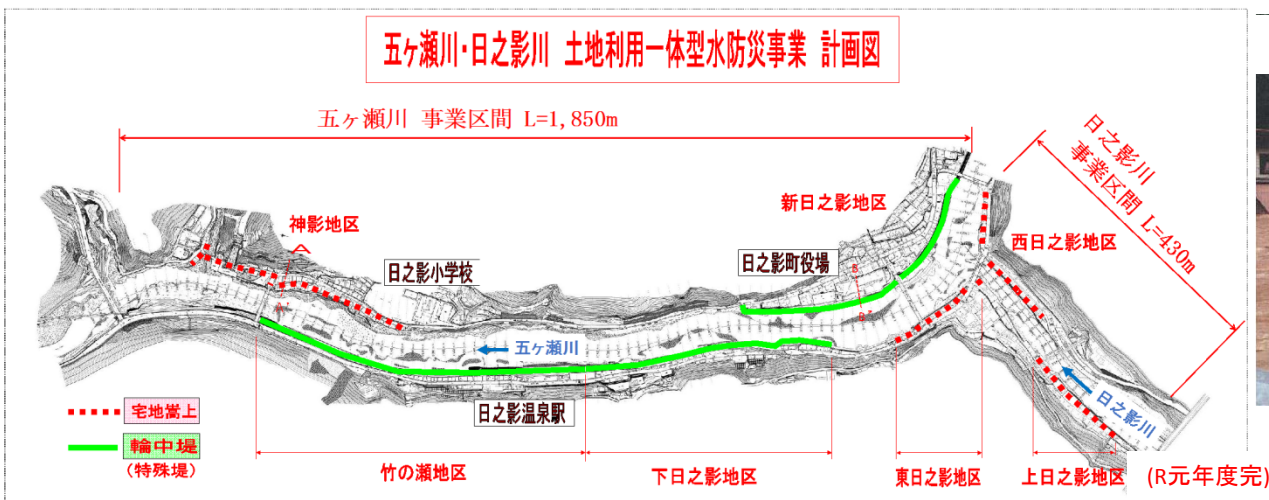
1) 洪水を河川内で安全に流す対策

① 整備計画規模に対応した河道掘削等の実施

【五ヶ瀬川・日之影川 土地利用一体型水防災事業】

○平成17年台風19号の出水により、日之影町役場付近市街地で床上浸水85戸、床下浸水26戸という未曾有の被害が発生。これを解消するため、輪中堤・宅地嵩上げによる土地利用型水防災事業に平成19年度から着手。本年度10月頃、竣工予定。

○事業内容 輪中堤 L=1,430m、宅地嵩上げ N=66戸 総事業費 約50億円

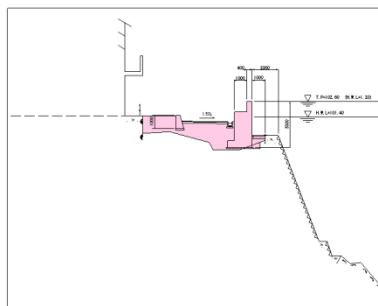


被災時

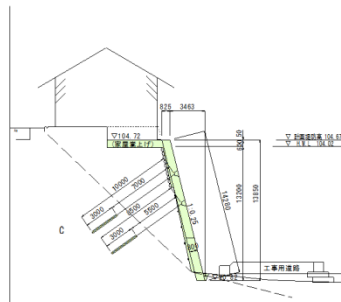


完成

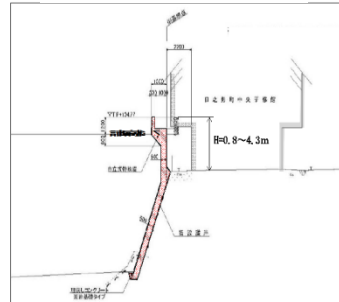
下日之影地区(特殊堤)



東日之影地区(宅地嵩上)



新日之影地区(特殊堤)

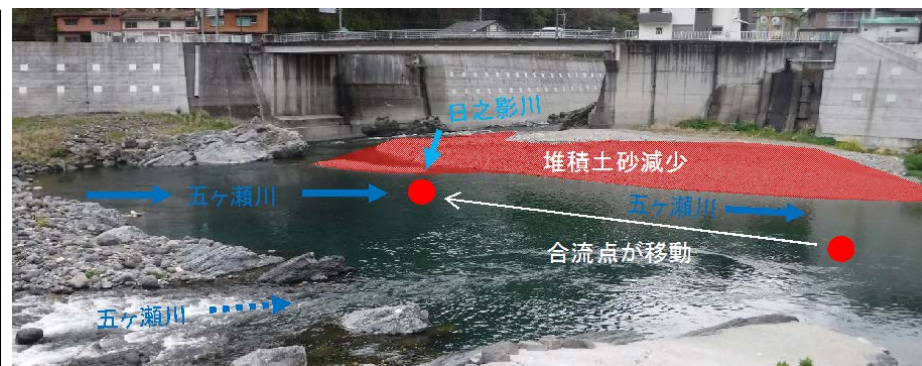
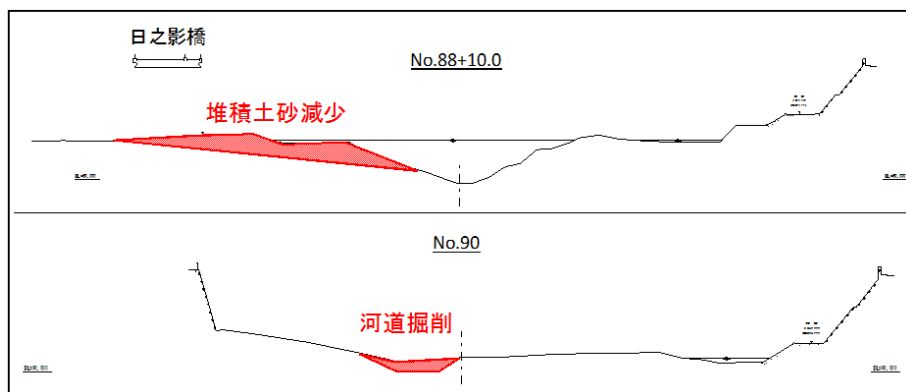
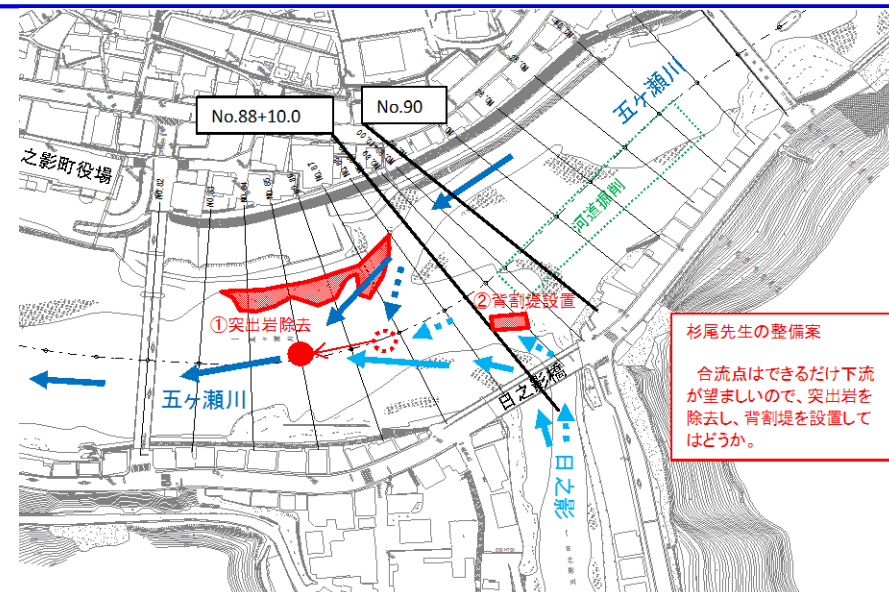


## 1) 洪水を河川内で安全に流す対策

## ① 整備計画規模に対応した河道掘削等の実施

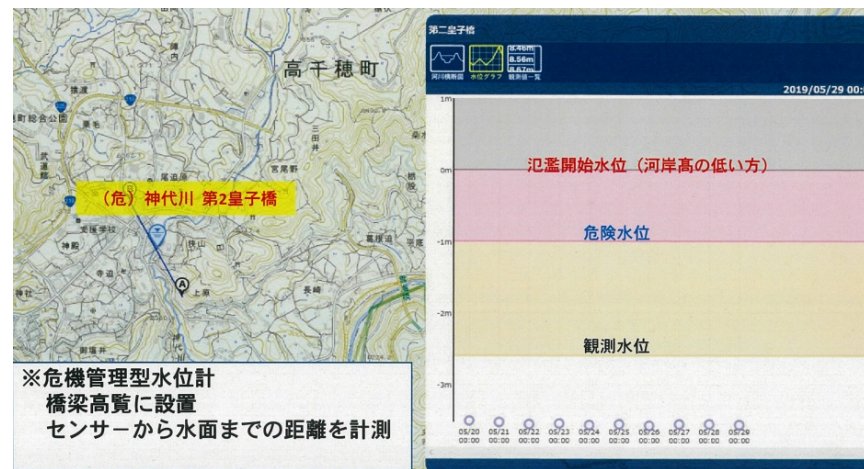
## 【日之影川合流部における堆積土砂の除去】

- 国土強靱化3ヶ年緊急対策事業により、治水安全度を計画的に向上させるため、平成30年度から五ヶ瀬川他3河川において、堆積土砂、河川内支障木撤去を実施。
- 日之影地区では、日之影川合流部に堆積し河口閉塞を起こしている土砂について、五ヶ瀬川本川の流向等を考慮し緊急的に除去し、河道断面を確保した。今後は、県で行う自然豊かな水辺の工法研究会にて、経過観察を行なう。



## ⑧安定した雨量・水位情報等を提供できるよう観測局等の機能の向上を図るとともに適切な維持管理に努める 【危機管理型水位計の設置】

- 既設水位観測局を補完し水位観測を行い、的確な避難判断に資するため、管内3町に6基の避難危機管理型水位計を設置。
- 内3基、H31.3月より運用を開始、3基、7月運用開始予定。



神代川の危機管理型水位計 観測事例



- 氾濫の危険性がある住宅地に設置したことで、水防活動の他、地域住民が、スマートフォン、パソコンにより河川水位情報を容易に入手することができ、避難判断情報として、早期の避難等が可能となった。

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組



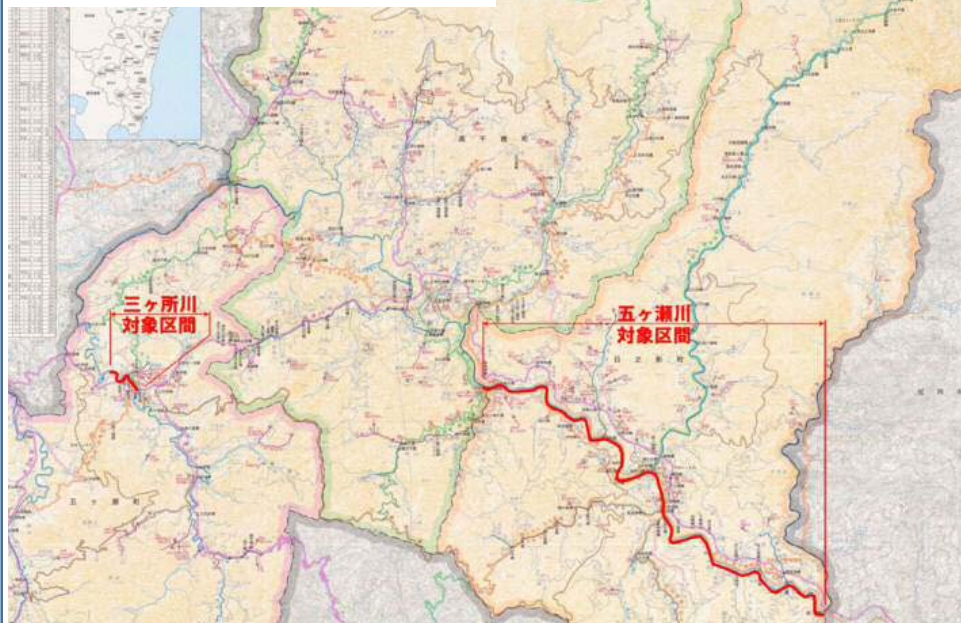
## ① 想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域図等の策定・公表

- 五ヶ瀬川、三ヶ所川において、洪水浸水想定区域図作成及び公表

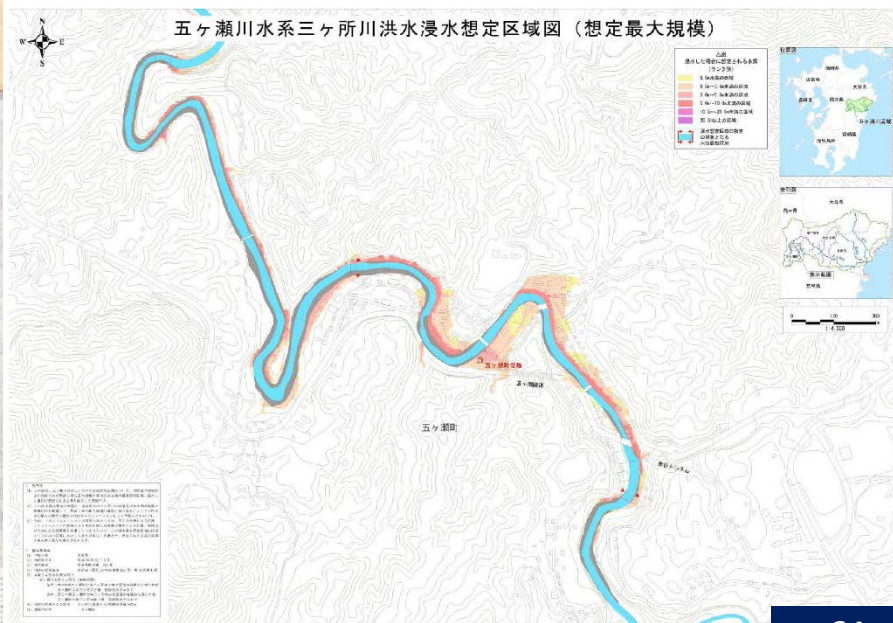
## ■ 洪水浸水想定区域図の見直しと公表

- 洪水浸水想定区域図について、これまでの計画規模のものから、想定し得る最大規模の降雨（概ね1000年に1回の確率）を前提とした洪水によるものを作成することとなり、西臼杵支庁では、管理する河川の水位周知区間（2河川）について、浸水想定区域図の作成を進め、平成30年12月に公表。
- 近年、施設計画を越える豪雨災害が発生するなか、人命を守り、社会経済の被害の最小化を図るための対策を検討し、準備しておくための基礎資料になるものと期待。

## ■ 洪水浸水想定区域図作成箇所



## ■ 洪水浸水想定区域図作成例



# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

## ⑤ 迅速かつ円滑な防災対応のための関係機関が連携した水防訓練や情報伝達訓練の実施【再掲】

- 大規模災害時に、迅速かつ的確に対応するため、関係市町村、消防、警察、建設業協会等の関係団体との連携、緊急連絡体制の確認と情報伝達方法について確認を行った。
- 国道218号で大規模な土砂災害が発生したことを想定し、ドローンを用いて現地画像の送受信を行い、災害時の安全が確認できない段階での、現場確認の手法として実効性を確認した。



防災対策会議訓練 (H30. 5. 29実施)

受信



参加人数：約50人



訓練時の国道218号 ドローン画像

## ■ 今年度の防災対策会議の成果

- 平成30年度の訓練では、初期の被災状況等の把握のための手段として、ドローンの使用が非常に有用であることが確認出来た。
- 降雨が残る状況、強風下での使用が課題となる。

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組

①防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、水防災教育等の推進【再掲】

- 管内の小学校を対象に、土砂災害の啓発を図るため、管内3町で、土砂災害防止教室を開催した。
- 管内の3町で、町が実施する土砂災害避難訓練にあわせ土砂災害防止講座を開催した。



参加人数：約40人

日之影小土砂災害防止教室（H30.6.5実施）



（ 同左 危険箇所机上確認状況 ）



参加人数：約20人

三ヶ所小土砂災害防止教室（H30.6.25実施）



高千穂町土砂災害防止講座（H30.6.3実施）

- 日之影小学校の土砂災害防止教室では、土砂災害が起きやすい地形、気象条件等を説明した後、グループ形式で、学校周辺の地形図を読み取り、個々で意見交換を行うなど、自主性に富んだ講習会となった。
- 高千穂町で行った、土砂災害防止講座においては、特に高齢者が早期避難の重要性を認識された。同時に行われた、消防による緊急蘇生法の講座もあり、負傷者を想定してより実践的なものとなった。地域市町村と連携し、このような取り組みを継続することで自助、共助力向上を図りたい。

# 平成30年度の実施取組内容

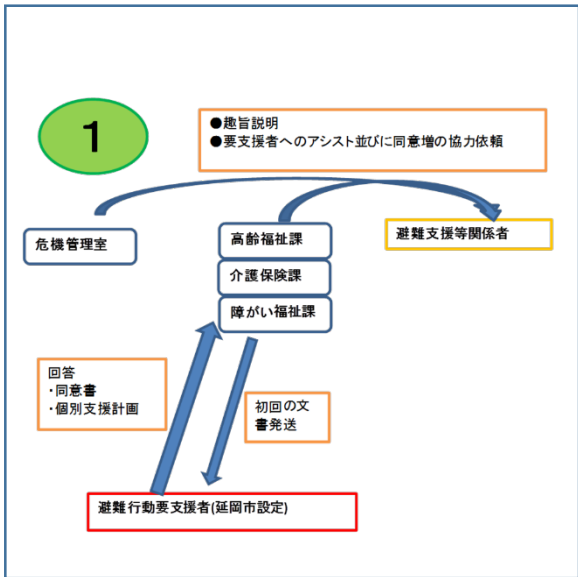
## 延岡市

# ソフト対策

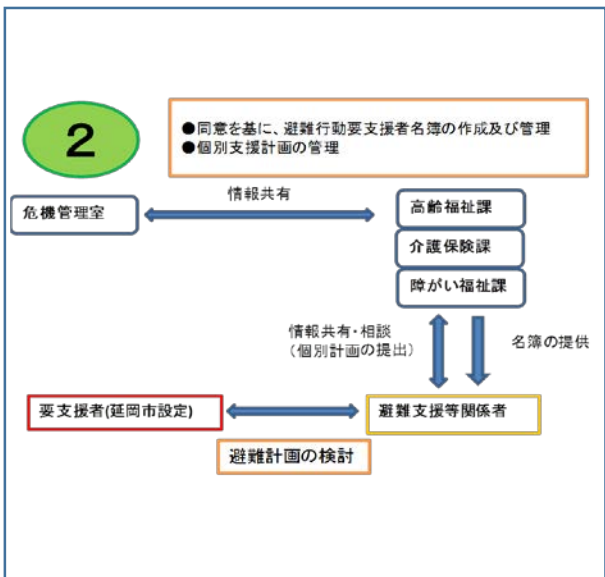
- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

④要配慮者等を対象にした避難体制の確立及び避難方法の周知

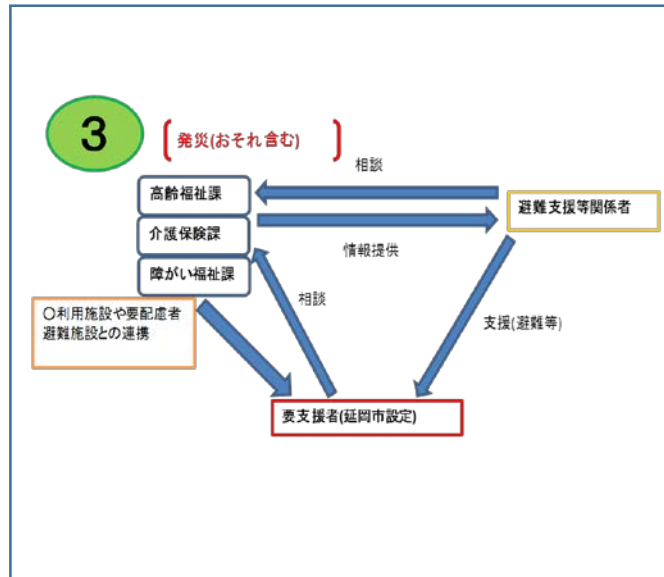
- ◆避難行動要支援者名簿の整備
  - 避難行動要支援者の安全対策を地域防災計画に規定（名簿に登載する者の範囲、避難支援等関係者、名簿の活用、名簿に掲げる事項、管理など）
  - 避難行動要支援者避難支援プランの検討



※同意確認



※個別計画の策定



※発災時又は発災のおそれがある場合の対応

- ◆避難支援等関係者に対する趣旨の説明と同意文書の発送が完了
- ◆今後は、避難行動要支援者名簿の管理を行い、同意を得られた方については、地区に対し避難計画や個別計画の策定を依頼
- ◆発災時や発災のおそれがある場合に、避難行動要支援者名簿を基に避難支援等関係者が避難支援等を実施する体制を構築



1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項

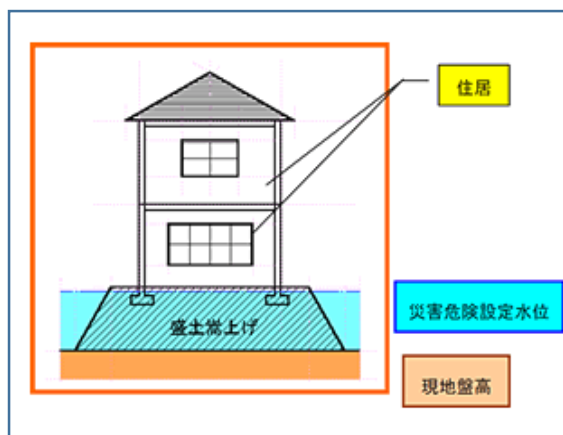
- ⑩ 浸水実績や土砂災害実績等の情報共有及び住民等への周知
- ⑪ 浸水被害軽減地区の指定促進

◆ 五ヶ瀬川・北川 土地利用一体型水防災事業に伴う災害危険区域の指定（※ L 1 洪水における対応であり L 2 洪水ではない）

- 建築基準法第 39 条及び延岡市災害危険区域に関する条例第 2 条の規定に基づいて、災害危険区域を指定している。
- 災害危険区域とは、土地利用一体型水防災事業の対象となる河川の区間で氾濫を許容する区域に、住居の用に供する建築物の建築を制限するため、条例で一定の規制をかけることにより、洪水に対する安全性を確保するもの。
- 宅地嵩上げ工事などのハード整備については、宮崎県が実施している。
- 災害危険区域の指定に関する内容については、市ホームページに掲載している。



※災害危険区域指定地区の一部



※宅地嵩上げのイメージ図



※宅地嵩上げの施工事例

◆ 災害危険区域の指定状況 全 46 地区

- ・平成 19 年 3 月 31 日 告示第 152 号 ( 5 地区) : 夕府地区・山瀬地区・白石地区・野上地区・屋形原地区
- ・平成 20 年 5 月 19 日 告示第 158 号 ( 5 地区) : 櫻谷地区・小川地区・下崎地区・笠下地区・桑水流地区
- ・平成 20 年 5 月 28 日 告示第 170 号 ( 19 地区) : 家田地区・川坂地区・橋岸地区・野峰地区・岩の口地区・元郵便地区・舞見田地区・伊良原地区  
六条地区・細見地区・深瀬地区・足久地区・白木地区・市棚地区・尾平地区・西之脇地区・猪之島地区  
栗木地区・石原地区
- ・平成 20 年 9 月 16 日 告示第 297 号 ( 1 地区) : 瀬口地区
- ・平成 20 年 11 月 6 日 告示第 346 号 ( 2 地区) : 伍領地区・鹿越地区
- ・平成 20 年 12 月 9 日 告示第 378 号 ( 2 地区) : 貝の畑地区・中三輪地区
- ・平成 21 年 1 月 20 日 告示第 20 号 ( 1 地区) : 川水流地区
- ・平成 21 年 4 月 8 日 告示第 109 号 ( 5 地区) : 俵野地区・本村地区・飛石地区・平野地区・日の谷地区
- ・平成 21 年 11 月 12 日 告示第 334 号 ( 3 地区) : 岡元地区・細見地区・中三輪地区 (※拡大して再指定。)
- ・平成 22 年 5 月 25 日 告示第 161 号 ( 1 地区) : 差木野地区
- ・平成 22 年 9 月 16 日 告示第 282 号 ( 1 地区) : 須佐地区
- ・平成 29 年 2 月 22 日 告示第 43 号 ( 1 地区) : 大峡地区

## ⑤ 法律で義務化された要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進及び避難訓練等の支援

### 【要配慮者避難確保計画作成のための支援】

- 平成29年6月の「水防法」「土砂災害防止法」改訂により、洪水浸水区域及び土砂災害警戒区域内に位置する「福祉施設」「学校施設」「医療施設」などの「要配慮者利用施設」において、災害から利用者の身を守るため「避難確保計画の作成」及び「避難訓練の実施」が義務化された事を受け、平成31年1月9日に、要配慮者利用施設の管理者・所有者を対象に、作成に関する講習会を開催
- 避難確保計画の作成を支援するために、平成31年2月6日、7日に「災害時に安全に避難する方法」「災害時に安全に避難する為の体制」をテーマにワークショップを開催



作成に関する講習会（H31.1.9実施）



作成の為のワークショップ（H31.2.6実施）



作成の為のワークショップ（H31.2.7実施）

【講習会及びワークショップ参加団体数：241団体】

### ■ 今後の計画

- 現時点において「避難確保計画」の作成義務があり、講習会等を受講した要配慮者利用施設439施設については、令和元年10月中に避難確保計画の提出を求める。
- 県及び市においては、各施設を所管する各部局等が、計画について確認をおこない、必要な場合は助言を行う。
- 今後、新たに追加された施設については、速やかに避難確保計画が作成できるよう、関係機関と連携し支援を行う。

# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

## 2)地域の防災組織構築の推進及び体制強化に関する事項

④防災体制強化のため、各地で防災推進員による勉強会を実施し、組織結成率を向上。

⑤災害時の円滑な防災対応のため、自主防災組織が主体となる防災訓練の取り組み支援。

## 【水害、土砂災害対応訓練】

○延岡市には、自主防災組織が6月1日現在で278組織が結成されており、その組織率は82.73%と高い水準となっている。

○各地区の自主防災組織は、防災訓練や防災講話をとおして、防災に対する知識、意識、技術の向上を図るとともに、自助・共助の精神を身につける取り組みを行っている。



5/20水防訓練



9/21 塩浜



10/20 惣領

## ◆30年度訓練等実績

	実施回数	参加人数	うち水防関係	参加人数
防災訓練	80	12039	9	1107
防災講話	189	9364	17	741

## ◆成果・課題・今後の予定

○自主防災組織の組織率、活動状況を見ても、市民の防災に関する意識は高まっている。

○今後も訓練、講話を継続し、ハザードマップ等を活用することによって地域の特徴や危険個所を自らが知り、洪水・土砂災害に対する防災意識の向上を図りたい。

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組

## 1) 水害・土砂災害の教訓の伝承及び水防災教育の推進に関する事項

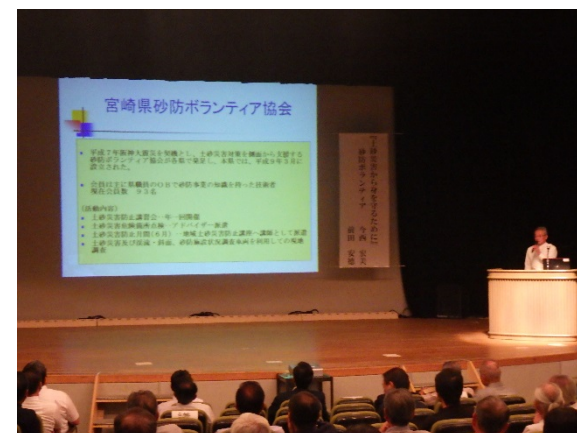
- ⑤ 防災意識の啓発を目的とした防災研修会やワークショップ等の開催
- ⑦ 平時からの防災意識の醸成のためのテレビ、インターネット、ラジオ、広報誌等のマスメディアによる水防活動の発信

## ◆ 自主防総会における防災研修会

- 総会開催時に防災研修会を毎回開催し、洪水災害や土砂災害に関する記念講演を実施している。

## ◆ 自主防瓦版の発行

- 自主防災組織連絡協議会事務局による「自主防瓦版」の発行



平成30年度自主防総会における防災研修会

## ◆ 防災研修会内容

- 平成29年度自主防総会(平成29年6月30日)
  - ① 「洪水災害に備える」  
国土交通省 延岡河川事務所 調査第1課 小野 富生 様
- 平成30年度自主防総会(平成30年7月5日)
  - ① 「土砂災害から身を守るために」  
砂防ボランティア 今村 宏美 様 前田 安徳 様
  - ② 「洪水災害に備える」  
国土交通省 延岡河川事務所 調査第1課 塩塚 大輔 様

## ◆ 自主防瓦版について

- 消防本部警防課内にある自主防災組織連絡協議会事務局が毎月1回発行し、各地区の自主防災組織の訓練の様子や各種防災情報を発信し、市民の防災意識の向上の一翼を担っている。

# 平成30年度の実施取組内容

## 高千穂町

# ハード対策



## ①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

○河川氾濫防止のため護岸工事を行った。(L型水路工)

位置図



施工前



施工後



## ①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

○河川氾濫防止のため護岸工事を行った。(ふとん籠工)

位置図



施工前



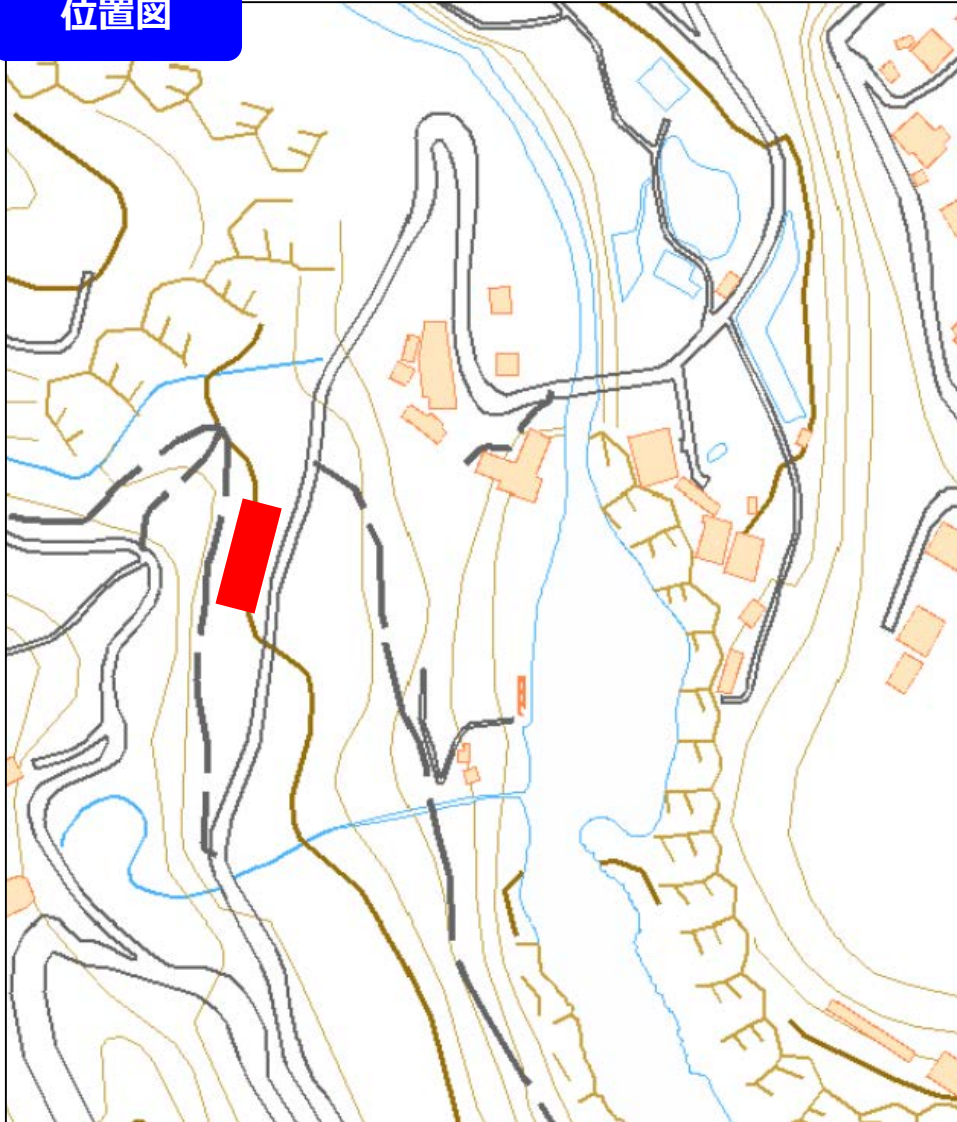
施工後



# ①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

○交通の安全確保のため落石防止工を行った。

位置図



施工前



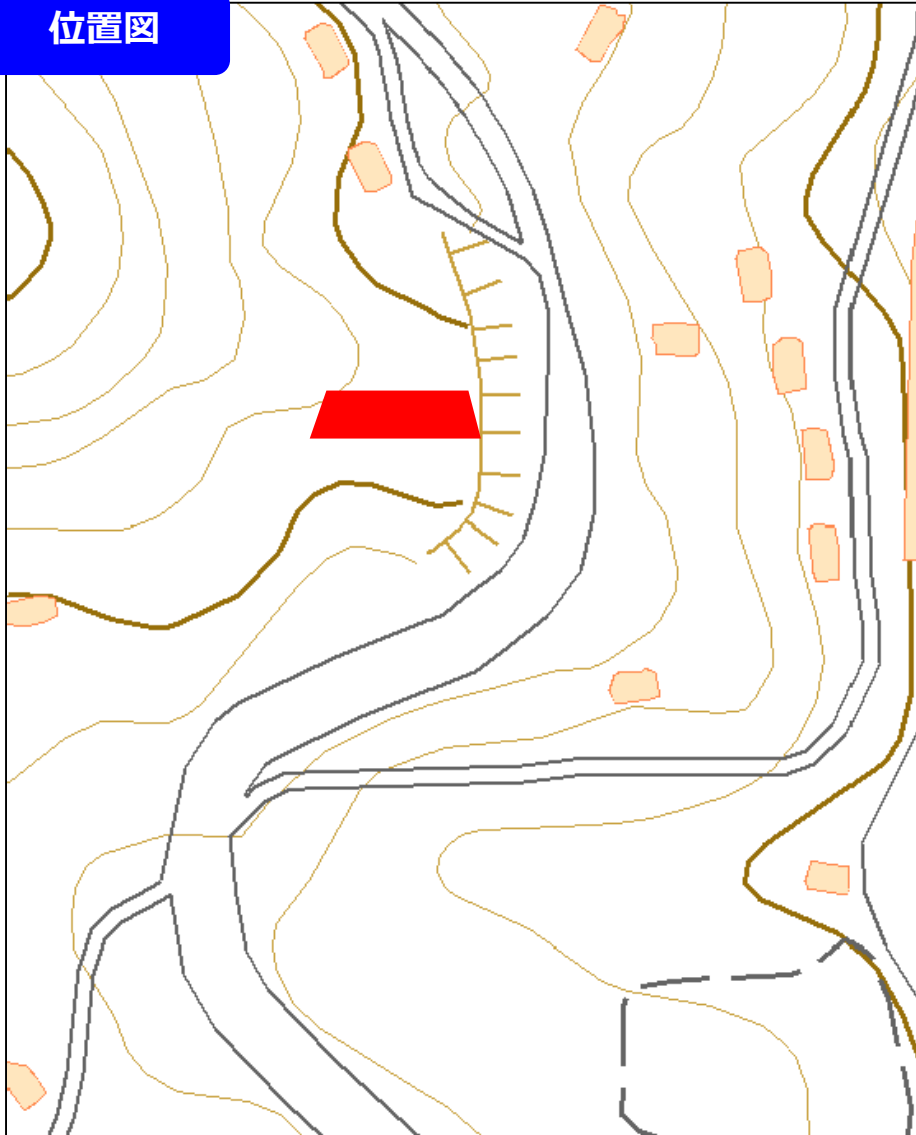
施工後



# ①土砂災害から住民を守るための施設の整備を行う

○法面土砂崩壊防止のため切土工・法面工を行った。

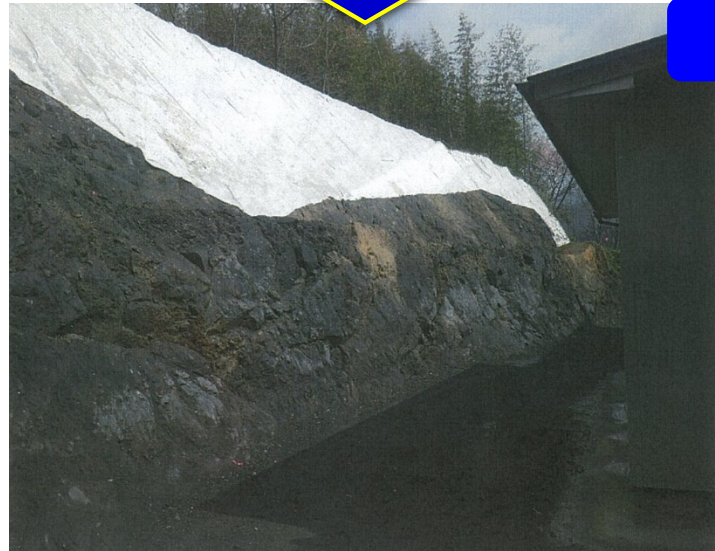
位置図



施工前



施工後



# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

⑨水位周知河川等の指定について検討・調整や簡易な方法を活用した情報提供など水害や土砂災害の危険性の周知促進 **【土砂災害防災訓練】**

○平成30年6月3日に台風接近を想定した全国統一土砂災害防災訓練を実施（上押方・下押方・片内地区：254世帯595名対象）

○関係機関、地域の人たち278名が参加。

○自主防災組織の運営訓練（自主避難の判断、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練）、自衛隊による住民搬送、警察・消防団・自衛隊による巡回、関係機関の情報伝達訓練、消防団の無線訓練、西臼杵消防本部による救急救命講習、西臼杵支庁土木課による土砂災害講習が行われた。



自主防災組織協議の様子



自衛隊による住民搬送の様子



消防本部による救急救命講習の様子

### ■ 成果と課題

○自主防災組織を中心とした、公民館住民の避難訓練、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練を行い地区住民の防災意識向上を図れた。

また、出水期前に関係機関の顔合わせができ、情報伝達などの体制確認ができた。

### ■ 令和元年度の予定

令和元年6月2日

8:40~11:30

岩戸地区で開催予定

## ①避難勧告発令に着目したタイムラインの検証及び改善に向けた情報伝達訓練の実施

## 【土砂災害防災訓練】再掲

- 平成30年6月3日に台風接近を想定した全国統一土砂災害防災訓練を実施（上押方・下押方・片内地区：254世帯595名対象）
- 関係機関、地域の人たち278名が参加。
- 自主防災組織の運営訓練（自主避難の判断、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練）、自衛隊による住民搬送、警察・消防団・自衛隊による巡回、関係機関の情報伝達訓練、消防団の無線訓練、西臼杵消防本部による救急救命講習、西臼杵支庁土木課による土砂災害講習が行われた。



自主防災組織協議の様子



自衛隊による住民搬送の様子



消防本部による救急救命講習の様子

## ■成果と課題

○自主防災組織を中心とした、公民館住民の避難訓練、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練を行い地区住民の防災意識向上を図れた。

また、出水期前に関係機関の顔合わせができ、情報伝達などの体制確認ができた。

## ■令和元年度の予定

令和元年6月2日

8:40~11:30

岩戸地区で開催予定

# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組



## ⑤迅速かつ円滑な防災対応のための関係機関が連携した水防訓練や情報伝達訓練の実施

## 【土砂災害防災訓練】再掲

- 平成30年6月3日に台風接近を想定した全国統一土砂災害防災訓練を実施（上押方・下押方・片内地区：254世帯595名対象）
- 関係機関、地域の人たち278名が参加。
- 自主防災組織の運営訓練（自主避難の判断、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練）、自衛隊による住民搬送、警察・消防団・自衛隊による巡回、関係機関の情報伝達訓練、消防団の無線訓練、西臼杵消防本部による救急救命講習、西臼杵支庁土木課による土砂災害講習が行われた。



自主防災組織協議の様子



自衛隊による住民搬送の様子



消防本部による救急救命講習の様子

## ■ 成果と課題

- 自主防災組織を中心とした、公民館住民の避難訓練、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練を行い地区住民の防災意識向上を図れた。
- また、出水期前に関係機関の顔合わせができ、情報伝達などの体制確認ができた。

## ■ 令和元年度の予定

- 令和元年6月2日
- 8：40～11：30
- 岩戸地区で開催予定

## ⑤災害時の円滑な防災対応のため、自主防災組織が主体となる防災訓練実施の取組支援

## 【土砂災害防災訓練】再掲

- 平成30年6月3日に台風接近を想定した全国統一土砂災害防災訓練を実施（上押方・下押方・片内地区：254世帯595名対象）
- 関係機関、地域の人たち278名が参加。
- 自主防災組織の運営訓練（自主避難の判断、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練）、自衛隊による住民搬送、警察・消防団・自衛隊による巡回、関係機関の情報伝達訓練、消防団の無線訓練、西臼杵消防本部による救急救命講習、西臼杵支庁土木課による土砂災害講習が行われた。



自主防災組織協議の様子



自衛隊による住民搬送の様子



消防本部による救急救命講習の様子

## ■ 成果と課題

- 自主防災組織を中心とした、公民館住民の避難訓練、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練を行い地区住民の防災意識向上を図れた。
- また、出水期前に関係機関の顔合わせができ、情報伝達などの体制確認ができた。

## ■ 令和元年度の予定

- 令和元年6月2日
- 8：40～11：30
- 岩戸地区で開催予定

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組

①防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、水防災教育等の推進 **【土砂災害防災訓練】再掲**

- 平成30年6月3日に台風接近を想定した全国統一土砂災害防災訓練を実施（上押方・下押方・片内地区：254世帯595名対象）
- 関係機関、地域の人たち278名が参加。
- 自主防災組織の運営訓練（自主避難の判断、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練）、自衛隊による住民搬送、警察・消防団・自衛隊による巡回、関係機関の情報伝達訓練、消防団の無線訓練、西臼杵消防本部による救急救命講習、西臼杵支庁土木課による土砂災害講習が行われた。



自主防災組織協議の様子



自衛隊による住民搬送の様子



消防本部による救急救命講習の様子

■ 成果と課題

○自主防災組織を中心とした、公民館住民の避難訓練、情報伝達訓練、要配慮者の避難支援訓練を行い地区住民の防災意識向上を図れた。  
 また、出水期前に関係機関の顔合わせができ、情報伝達などの体制確認ができた。

■ 令和元年度の予定

令和元年6月2日  
 8:40~11:30  
 岩戸地区で開催予定

# 平成30年度の実施取組内容

## 日之影町

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組

⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 **【防災訓練、土砂災害講話】**

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



防災訓練



土砂災害講話



救命講習

■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

5. 訓練参加人数 住民101名

6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定

## ① 避難勧告発令に着目したタイムラインの検証及び改善に向けた情報伝達訓練の実施

【防災訓練、土砂災害講話】再掲

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



防災訓練



土砂災害講話



救命講習

## ■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

## 1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

## 2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

## 3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

## 4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

## 5. 訓練参加人数

住民101名

## 6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

## 7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

## ■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

## ■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定



## ⑤ 法律で義務化された要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進及び避難訓練等の支援

### 【防災訓練、土砂災害講話】再掲

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



防災訓練



土砂災害講話



救命講習

### ■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

#### 1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

#### 2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

#### 3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

#### 4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

#### 5. 訓練参加人数 住民101名

#### 6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

#### 7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

### ■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

### ■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定

⑨浸水想定区域内又は土砂災害警戒区域内にある要配慮者利用施設の市町村地域防災計画における速やかな指定 **【防災訓練、土砂災害講話】再掲**

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



防災訓練



土砂災害講話



救命講習

■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

5. 訓練参加人数 住民101名

6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定

# ソフト対策

② 洪水氾濫及び土砂災害による被害を地域や企業のみ  
みんなで軽減、防災組織・体制強化のための水防活動の取組

⑤ 迅速かつ円滑な防災対応のための関係機関が連携した水防訓練や情報伝達訓練の実施

【防災訓練、土砂災害講話】再掲

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



防災訓練



土砂災害講話



救命講習

■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

5. 訓練参加人数 住民101名

6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定

# ソフト対策

③ みずからの自助力、みんなの共助力向上のための防災教育の推進の取組

① 防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、水防災教育等の推進 **【防災訓練、土砂災害講話】再掲**

○日之影町では、毎年、土砂災害全国統一防災訓練に合わせて、防災避難訓練を平成21年より実施している。



災害時要援護者の支援



土砂災害講話



救命講習

■ 第10回「土砂災害・全国統一防災訓練」

1. 目的

土砂災害に対する防災訓練を実施し、土砂災害危険箇所及び避難所・避難経路の周知、土砂災害警戒情報の発表、土砂災害警戒情報を補足する情報の提供、土砂災害警戒情報に基づく避難勧告の発令・解除、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚等、警戒避難体制の整備を図るものである。

2. 実施日及び時間

平成30年6月3日(日) 9:00~12:00

3. 訓練対象地区

日之影町 八戸地区 (八戸上・八戸本町)

4. 訓練参加機関等

①対象地区の住民、自主防災組織 ②市町村、消防団、消防支援隊、宮崎地方気象台  
③宮崎県砂防課、宮崎県危機管理課、西臼杵支庁、西臼杵広域行政事務組合消防本部

5. 訓練参加人数

住民101名

6. 訓練内容

①情報の収集・伝達 ②避難勧告等の発令 ③避難所の開設・運営 ④災害時要援護者への支援  
⑤防災意識の向上

7. 講習会

①支庁土木課による土砂災害講話②西臼杵広域消防本部・女性消防団員による救命講習(心肺蘇生法等)

■ 成果と課題

○訓練を通じて避難所・避難経路の周知、住民避難及び避難支援、住民の防災意識の高揚が図られた。資機材の災害発生時に使用できるよう、定期的な点検・確認が必要と感じた。

■ 令和元年度の予定

○令和元年6月2日(日)  
9:00~12:00  
八戸地区(四ヶ惣・大川平・梁崎)で開催予定

# 平成30年度の実施取組内容

## 五ヶ瀬町

# ソフト対策

- ① みずからが水害及び土砂災害の教訓を忘れず、迅速かつ安全な避難、社会システムの回復に資するための取組



## ① 避難勧告発令に着目したタイムラインの検証及び改善に向けた情報伝達訓練の実施

## 【要配慮者施設訓練及び防災講話】

## ※目的

全国統一防災訓練にあわせて、住民の防災意識の高揚等・情報連絡の体制、消防団との連携を図ることを目的に、気象台・県・西臼杵支庁・町（対策本部）の情報伝達訓練及び選定した地区による避難訓練及び要配慮者施設の避難訓練を実施した。

## ※内容「大雨警報、土砂災害警戒情報発令」

西臼杵支庁⇔町（災害対策本部）⇔対象地区・地元消防団との情報伝達訓練

『大雨警報、土砂災害警戒情報を元に避難準備情報「自主避難の呼びかけ」避難勧告等の発令、広域避難所開設、要援護者避難支援、消防団巡回訓練』

## ※選定地区（成果と課題）

第11行政区「参加者約100名」 ごかせ荘「約15名」

訓練を通じて住民一人ひとりが防災に対する考え方（自助）隣近所での避難呼びかけ（共助）要援護者に対する地域での取り組み方について再確認ができた。「ごかせ荘：地元消防団との連携確認ができた」

## ※防災講話

西臼杵支庁の防災講和、西臼杵広域行政事務組合消防本部による救急救命講座（A E D）を実施。

## ※訓練参加機関

対象地区の住民（自主防災組織）、五ヶ瀬町、消防団、宮崎地方気象台、宮崎県（砂防課・危機管理課・西臼杵支庁）西臼杵消防本部



要配慮者施設訓練状況  
(H30.6.3実施)



防災講話（H30.6.3実施）



救命講座（H30.6.3実施）